

我が校のものがたり

— かけがわ学力向上ものがたり（別冊） —

掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを、学校・家庭・地域で共通理解をして、どのようにして学力の向上を図るか、その理念や方法等を「かけがわ学力向上ものがたり」として平成26年3月に策定しました。

4年目を迎える本年度は、これまで意識して授業改善に取り組んできた「学びのユニバーサルデザインを重視した授業」と「授業の再構築」に加え、「主体的・対話的で深い学びの授業設計」に力を入れ、子どもたちの確かな学力の向上のために、さらに積極的な授業改善への取組を推進します。

各学校においては、児童生徒の学習状況に基づいた、学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成しました。これを基盤とした共通理解と共通実践をとおして、全教職員が組織的な協働を図っていきます。

さらに、学校だけでなく、家庭力・地域力を生かし、学びの主体者である一人一人の子どもの生きる力を育む教育活動の充実に努めてまいります。

平成29年7月
掛川市教育委員会

目 次

頁

【小学校】

1	日坂小学校	2
2	東山口小学校	4
3	西山口小学校	6
4	上内田小学校	8
5	城北小学校	10
6	第一小学校	12
7	第二小学校	14
8	中央小学校	16
9	曾我小学校	18
10	桜木小学校	20
11	和田岡小学校	22
12	原谷小学校	24
13	原田小学校	26
14	西郷小学校	28
15	倉真小学校	30
16	土方小学校	32
17	佐束小学校	34
18	中小学校	36
19	大坂小学校	38
20	千浜小学校	40
21	横須賀小学校	42
22	大淵小学校	44

【中学校】

23	栄川中学校	48
24	東中学校	50
25	西中学校	52
26	桜が丘中学校	54
27	原野谷中学校	56
28	北中学校	58
29	城東中学校	60
30	大浜中学校	62
31	大須賀中学校	64

小 学 校

掛川市立日坂小学校 平成29年度 我が校のものがたり

日坂小の子どもたち

- 楽しい授業がある・あいさつができる・学校が楽しい… 98% (H28実績)
- 授業や学校に来ることを楽しみにしている。地域行事等にも進んで参加している。
- 自主性や自己主張力、主体性、リーダーシップの発揮、創造力等を伸ばしていきたい。
- 発表は多い…でも、考えが**深まる**ところまでは至っていない。
目的をもった交流方法を工夫し、学力向上をめざしていく。



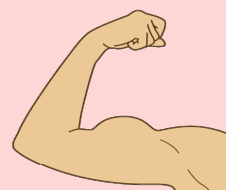
研修

テーマ

進んでかかわり、表現する子

栄中学校区合同研修テーマ
めざす子どもの姿

- ① **考えを比べながら聴き、学び合う姿**
- ② 自分の思いや考えをわかりやすく表現する姿
- ③ 仲間と協力して課題を解決する姿



校内研修(日々の授業・研究授業・朝活動等)で
つけたい力を明確にして ⇒ 学力向上

計画 (Plan)

【研修テーマに向かって】

① わかりやすく表現する力をつけるために！

【自分の思いや考えをよりわかりやすく表現することができる力】

⇒ 学習の基礎となる語彙力、

言葉の特徴やきまりを正しく理解する力を伸ばす！



② 深め合う力をつけるために！

【友達と積極的にかかわり、自分の学習に生かそうとする力】

⇒ 課題を明確にし、

言語によるかかわりの場を意図的に設定する！



手立て (D o)

日坂小の授業

- ①本気になって取り組む課題

赤囲み

※つけたい力の意識
↓
(子どもにもわかるように)

- ②自分の考え作り

- ③目的を持った交流活動

- ④まとめ

青囲み

※つけたい力を押さえる

☆公開授業週間で他学級の授業参観
(子ども)

☆日常的に他学級の授業参観
(教師)

☆各学年でつけたい力を明確にする。「各学年の系統性を意識」

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
読書	読書を楽しむ	読書を楽しむ	読書を楽しむ	読書を楽しむ	読書を楽しむ	読書を楽しむ
話し	話しを楽しむ	話しを楽しむ	話しを楽しむ	話しを楽しむ	話しを楽しむ	話しを楽しむ
書き	書きを楽しむ	書きを楽しむ	書きを楽しむ	書きを楽しむ	書きを楽しむ	書きを楽しむ
算	算を楽しむ	算を楽しむ	算を楽しむ	算を楽しむ	算を楽しむ	算を楽しむ
国	国を楽しむ	国を楽しむ	国を楽しむ	国を楽しむ	国を楽しむ	国を楽しむ
理	理を楽しむ	理を楽しむ	理を楽しむ	理を楽しむ	理を楽しむ	理を楽しむ
体	体を楽しむ	体を楽しむ	体を楽しむ	体を楽しむ	体を楽しむ	体を楽しむ
道	道を楽しむ	道を楽しむ	道を楽しむ	道を楽しむ	道を楽しむ	道を楽しむ
芸術	芸術を楽しむ	芸術を楽しむ	芸術を楽しむ	芸術を楽しむ	芸術を楽しむ	芸術を楽しむ
総合	総合を楽しむ	総合を楽しむ	総合を楽しむ	総合を楽しむ	総合を楽しむ	総合を楽しむ

☆深め合う交流活動

- ①目的をもった交流形態を意図的に設定

・比べ合う ・高め合う ・磨き合う

- ②考えたくなるような課題の設定

家庭学習の充実～家庭との連携（柴川中学校区「家庭学習の手引き」）～

- ①家庭学習の時間のめやす

1～3年	4年	5年	6年
30分	40分	50分	60分

- ②家庭学習での見届け方

低学年	高学年・中学校
そばで見守る	学習が終わったら声をかける

→「本読みカード」で連携！

- ・家族と学習時刻を決めて、本読みカードに記入！
- ・励ましの言葉を！！

検証 (C h e c k)

- ①研究授業（年6回）

※全教員で事前研、参観、事後研→成果と課題から次へ繋げる。
※総合教育センター授業設計診断表を活用した授業づくり



- ②ぐんぐんテスト（国・算…年2回）

※定着度を把握し、その後の指導に生かす。
※個別ファイル記録作成…保護者面談で活用する。

- ①音読発表会

- ・音読
- ・百人一首
- ②かがやき発表会（12月）
- ③百人一首大会（2月）



「わかりやすく表現する子」

「みんなで深め合う子」

をめざします！

Action

P→D→G→A



掛川市立東山口小学校

平成29年度 我が校のものがたり

「樹木が育つように」子どもたちの学びを支えたい

東山口小学校の子どもたちは真面目に一生懸命に学ぼうとする子が多く、与えられた課題に対して前向きに取り組むことができる。放課後学習「寺子屋」やチャレンジテストに取り組むことで、基礎基本の力がついてきた。しかし、そこには個人差があり、今後も個別に対応していく必要がある。また、学習に対して受け身などところがあり、自ら学ぼうという意識が低い。これらの実態を踏まえ、「樹木が育つように」子どもたちの学びを支えていくのが本校の学力向上物語と考える。



学習の基盤づくり(学びの幹をつくり、枝葉を生き茂らせるために)

⑤ 自分の考えを持ち、表現できるようにする指導

「子どもたちが課題を明確に持って、見通しを持って学び合えるような課題の設定の工夫」と、「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを深めるための学び合い活動の工夫」の2点に特に力を入れて授業づくりを行う。

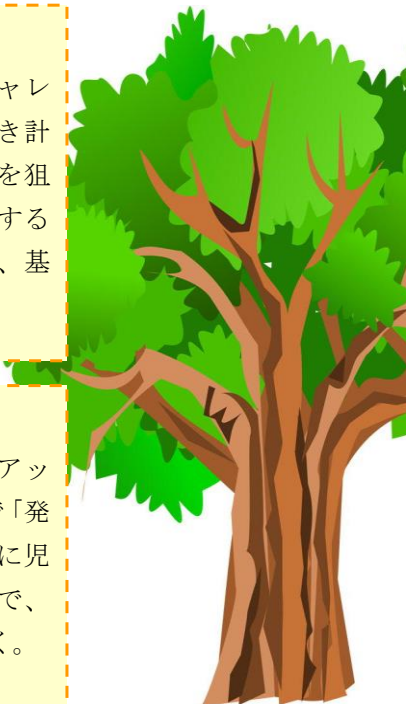
算数科を窓口にして、既習事項を生かす、具体物の使用、表や図を書いて考える、などに取り組み、筋道を立てて自分の考えを自分の言葉で説明できるように育てていく。また、算数用語を正しく使った説明や授業のまとめができるようにしていく。

④ 校内自主テスト

年間3回の国語・算数チャレンジテストを実施。読み書き計算力の基礎や応用力の定着を狙い、児童は目標合格点に達するまで繰り返しチャレンジし、基礎的な力を伸ばしている。

② 「発表名人表」の取組

聴き方・話し方をレベルアップさせるために、全校共通で「発表名人表」に取り組む。常に児童に意識させ取り組むことで、話す力・聴く力を育てていく。



③ 学習支援環境

<寺子屋(放課後学習支援室)>

毎週月曜日の放課後に学習支援教室「寺子屋」を設定。児童一人一人に個別の支援を行い、基礎的な力をつける。

・内容例：算数を中心に復習。

四則計算の反復練習。

百マス計算。

文章問題。

表や図を使って考える。

<夏休み寺子屋>

夏季休業中に3日間、「夏休み寺子屋」の日を設定。一斉学習で習得が不十分な児童や家庭学習の習慣がつかない児童等を対象に全職員で個別指導に当たる。

合わせて「水泳特訓」(泳げない子の水泳指導)を実施。

① 安心して学び合える学級づくり

本校が子どもの学力向上に向けて一番大切にしていきたいことは、学級づくりである。安心して自分の意見が言える、学び合える、支持的風土の醸成を目指して全職員で取り組んでいく。



職員研修の充実（学びの根を確かめ、授業改善の推進のために）

① 校内研修の活性化

窓口教科を「算数科」とし、願う子どもの姿を目指して研修に取り組んでいる。

【テーマ】 「進んで学び合う子」

願う姿 ・課題を自分のものとし、仲間と協力して解決しようとする姿。

・自分の思いや考えを分かりやすく表現する姿。

・考えを比べながら聴（訊）き、伝え合う姿。

（低）進んで友達とかかわり、自分の考えをつくろうとする。

（中）互いの考えの違いに気付き、自分の考えを深めようとする。

（高）複数の考え方に触れ、よりよい答えや方法を求めようとする。

【静岡県の授業改善の視点】

1 押さえる：学習指導要領の目標や内容を明確に押さえて授業を行う。

2 仕掛ける：付けたい力に沿って効果的な手だてを仕掛ける。

3 確かめる：子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する。

【掛川市の学びのプロセスを取り入れた東山口授業づくり三原則】

① 焦点化・授業過程の再構築：学習の見通しを持たせる。

学び合って解決したいと思えるような問いや学習課題の設定。

② 言語活動の充実：学習形態や学習方法を工夫した学び合い活動を仕掛ける。

互いの考えを聴き、伝え合い、考えを深め、進んで表現していく授業設計。

③ 視覚化：板書の構造化。掲示物、教具の工夫。ICT の活用。

② 栄川学園共通の取組

【互いに学び合う授業公開】

年間3回の授業公開と3回の保育公開を行い、1園3校の教諭が3グループに分かれて学び合っている。共通のテーマである「進んでかかわり表現する子」の育成を目指し、各校がどのような手立てを持って授業づくりをしているのか、その具現を見て話し合う一貫教育研修会を年間3回予定している。教師は12年間を見通した視点で子どもの学び方について研修を深める。

【学習ルールの一統】

・「話す・聞く」ルール……友達の方を向いて話す聞く、聞くときは聞く、書くときは書く。

・「ノート」のルール……日付を書く、詰めて書かない、学習課題（学習問題）は赤で囲む。

全ての教科で考えの足跡を残す、「振り返り」自分の考えの軌跡を書く。

・「家庭学習」のルール……中学校区一斉に作成した「家庭学習の手引き」を全戸に配布し、幼稚園から中学校までの家庭学習の仕方を保護者にも理解していただき、家庭学習の充実を図る。

東山口小学校は、全職員が全児童を理解し関わることで安定した学校づくりがなされている。地域の協力も得られ、栄川学園の園・学校とも連絡を密にとることができる。この小規模校の利点を生かして子どもたちに質の高い学びを保障していく。

掛川市立西山口小学校

平成29年度 我が校のものがたり

「基礎基本の確実な定着」ものがたり

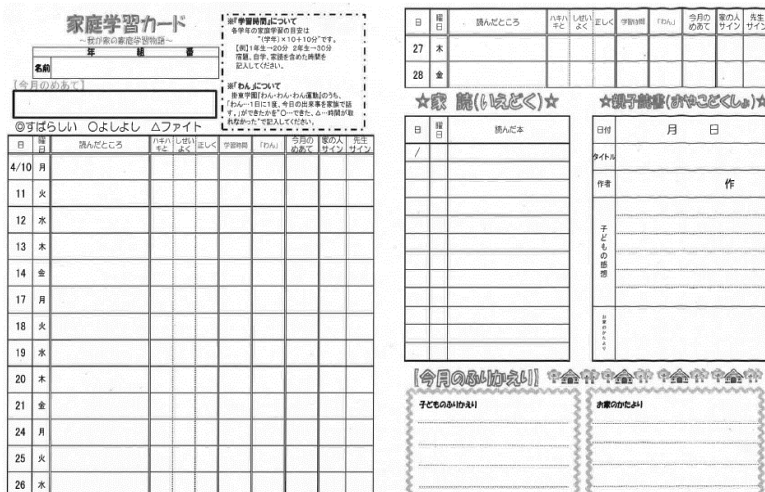
日常の言語活動の充実

話す (言葉を広げる)	【はきはきタイム】	【読み聞かせ】	【朝読書】
			
聞く	【聴き方 (きくきく山)】 	➔	【自己評価 (今年度より)】 

基礎・基本の確実な定着

1	朝活動「ぐんぐんタイム」	毎週(金)15分間授業
2	国・算定期テスト	年5回テスト期間設定(全校一斉実施)
3	夏休みチャレンジ学習	3日間実施(国語・算数)
4	読書の充実	学校(朝活動(毎週3回)) + 家庭での読書啓発(家読)

家庭学習カード



家庭学習カードは、学習内容の記録と、読書の進捗管理を兼ねたカードです。上部には「読書」の進捗を記録するための表があり、下部には「今月の勉強めざし」や「今月の勉強のたより」などの欄が設けられています。

今年度、本読みカードを家庭学習カードに変更をしました。家庭学習カードには、本読みカードの要素に加え、「家読」「親子読書」、昨年まで本校で別紙で取り組んでいた「わが家の家庭学習ものがたり」、掛東学園で取り組んでいる「わんわんわん」の要素を取り入れ、子どもたちの学習面・生活面の基礎基本の力を支えていきます。

「きき合い 学び合う」ものがたり

【平成28年度 学校評価結果】

児 童		保護者	
授業の内容が分かる。	92%	おさんは授業の内容を理解している。	98%
人の話を目と心を向けて聞いている。	94%	おさんは視線を合わせて話を話したり聞いたりしている。	95%
進んで自分の考えを発表したり話し合ったりしている。	80%	おさんは進んで自分の考えを発表したり、話し合ったりしている。	80%



「どの子もかけがえのない存在である。」すなわち、「どの子にも力を付ける。」という思いから、平成29年度西山口小学校では、全教育活動の中で2つのきく（聴く（心で）・訊く（尋ねる））に力を注いでいきます。また、学校評価から見えた「自分の考えを伝える」項目において、子どもたち自身が、分からないことを友達に尋ねたり、自信をもって自分の考えを伝えたりすることができるような授業を展開していきます。そこで、今年度の研修テーマを、以下のように設定しました。

きき合い 学び合う授業

きき合い学び合う授業を行うために次の2点に取り組みます。

「やってみたい！」学習問題の設定	きく活動を取り入れた学び合いの場の設定
<ul style="list-style-type: none"> ○「今考えることは何か？」がはっきりするよう、問題を赤枠で囲み視覚で伝えます。 ○「ん？」「なんで？」と思わず考えたくなるような問題を設定します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2つのきく（聴く・訊く）を取り入れた場を設定していきます。 ○対話ができるように、ICTを使ったり、付箋を使って友達の考えが見えるようにしたりする時間を作ります。

そして、このような子どもの姿を増やしていきたいと考えています。



掛川市立上内田小学校

平成29年度 我が校のものがたり

「できた！」 「わかった？」

言語活動

○読書活動の推進

- ・朝の読書活動・読み聞かせ
- ・家読週間（年間2回）
- ・学校図書館の有効活用
- ・移動図書館、市図書館の利用促進

○学校図書館の本や資料の充実

- ・総合的な学習や各教科での調べ学習に必要な図書や資料を揃える

○子ども新聞の購読、活用

- ・新聞を通して社会への関心を持ち、読むことに慣れる

○朝活動の作文タイムの活用

- ・「条件にあった文」「短時間」を目標にして書くことに慣れる

○やまびこタイムの学年発表

- ・詩の暗唱

学ぶ意欲

○「参加型授業」の実践

- ・互いにわかり合える良さを実感できる「学び合う」場を取り入れた授業

○「学びの時間」の充実

- ・金曜日放課後の補充・発展学習
- ・個に応じた指導

○教材研究の時間の確保

- ・金曜日放課後に教材研究の時間の設定
- ・教材教具の準備

○掛東中生によるサマースクールの実施

- ・教師と掛東中生（本校の卒業生）による夏季休業中の補習学習

○授業を見る週間（年間3期）

- ・学年部による教員相互の授業参観
- ・児童による上の学年の授業参観

学
力
向
上

「やってみよう！」「なぜ？」があふれ出る授業 ～参加型授業の創造～

○道徳の「友情・信頼」「相互理解・寛容」を意識した「めざす授業」の設定

「学び合い」のイメージの共有と実践に対する学級評価によるさらなる向上

○学習問題の吟味と算数的活動の設定、参加型授業のための手立ての設定

投げかけ、揺さぶり、体験、授業組織、学習形態（一斉・グループ・ペア学習）板書計画等

○まとめ、確かめる活動の設定

まとめの段階での実態把握 ノート記述・練習問題
小テスト、単元別テストによる数値化された情報把握

家庭学習

○家庭学習の習慣づくり(家庭学習の手引き)

- ・低30分 中40分 高60分以上
 - ・かみうちだの学びの約束
 - ・生活リズムの見直し、わんわん運動
- 「ノーメディア」「早寝・早起き・朝ごはん」

にこじろう運動

○子どもに自信をつけさせるために自己肯定感や自己有用感を持たせ、自尊感情を高める。

- ・子どものよさやよい表れを称揚
- ・子どもの理解、称揚の質的向上
- ・担任、校長、家庭からの称揚

- 1 児童の実態（H28年度全国学力学習状況調査より）
 - ・国語は、漢字や文法などの基本的なものではあるが、文章の読解力が低い。特に、短時間で長文を読み、考える力が弱い。
 - ・算数は、四則計算などの基本的なものではあるが、筋道を立てて思考力を問う問題に弱い。

- 2 「やってみたい!」「なぜ!」があふれる授業 ～参加型授業の創造～
 - (1) 「学び合う」場の設定と心情の醸成
 - ・「友情・信頼」「相互理解・寛容」の心を育む道徳教育を土台に、「教え合う場」や「学び合う場」を授業の中に設定する。
 - ・「学び合う姿」の称揚や「学び合いが理解につながった喜び」を全体に広めることで学級の雰囲気醸成する。
 - (2) つけたい力の明確化
 - ・本時で何を学習するのか、何を考えるのかはっきりさせる。→【学習問題】
 - ・思考を助けるために、学習していることをわかりやすく表す→【可視化】
 - ・個への対応→【学び合う場】
 - ・個の変容と見取り→【学習のまとめ】
 - まとめの段階での実態把握（ノート、発言、練習問題）
 - 小テスト、単元別テストによる数値化した状況把握
 - (2) 授業展開の工夫
 - ・子どもが興味を持つ導入
 - ・早い段階での「やってみたい」と思える学習問題の提示
 - ・わかりやすい板書、ICT機器や具体物の活用
 - ・追求する時間の確保、充実（考える・調べる・学び合う）
 - ・確かめる時間の確保、充実（わかったことを自分の言葉で書く・練習問題）

- 3 言語活動の充実
 - (1) 「読む」力の向上
 - ・朝の読書、読み聞かせの時間の充実 →読み聞かせボランティアの活用
図書館司書の活用
 - ・図書室の本や資料を整備→「読みたい」という欲求の喚起、調べ学習に対応
 - ・子ども新聞の購買、活用→社会に関心を持つ、読むことに慣れる
 - (2) 「書く」力の向上
 - ・作文タイム（朝活動週1回）の時間の活用→条件に合った文、短時間
 - ・授業のまとめの時間→自分の言葉で書く
 - ・家庭学習の日記→毎日書き続けることで、書くことに慣れる
 - (3) 「話す・聴く」力の向上
 - ・筋道を立てて考える力→事実や既習事項等から考え、説明する。
 - ・互いに考えを伝え合う力→考えを発展させる。
 - ・自分の考えを自分の言葉で表現する力→体験から。情報を分析・評価する。

- 4 学ぶ意欲を持たせるための環境
 - ・「学びの時間」→毎週金曜日の放課後、補充・発展的学習。個別支援。
 - ・「にこじろう運動」 → 自信をつけさせる。子どものよさやよい表れを認め、全校に広める。学校と家庭の両方で称揚する。
 - ・家庭・地域との連携 → 家庭学習の見届け・基本的生活習慣の確立・地域の人材活用
わんわんわん運動（毎月15日）の設定
 - ・夏休みの「サマースクール」→卒業生の掛東中生や教師による補習学習。
先輩に教わることが意欲につながる。
 - ・教師の研修→教材研究の時間の設定。気楽に相談できる職員集団



掛川市立城北小学校

平成29年度 我が校のものがたり

本校の児童

誰にでもやさしい学校、誰もがわかる授業を目指した3年以上前からの取り組みと、2年間に渡る市指定研究「確かな学力の育成」を目指した取り組みにより、以下のような姿が増えています。

- ・課題に前向きに取り組み、自分なりの考えや思いをもつ。
- ・友達の意見を聞いて、自分の考えを深める。
- ・学びに浸る。

児童へのアンケートの結果（H28.7）、95.6%の子どもが「授業がよくわかる」と回答しました。よくわかるという自信は全国学力学習状況調査の結果にも表れています。また、授業の終わりには新たな疑問や次時への意欲がしばしば生まれています。

研究主題 学び合い高め合う授業づくり ～確かな学力の育成～ の具現に向けて

【研修仮説】じょうほく型「新たな学びのプロセス」を基盤とし、授業過程の再構築を3つの視点をもとに授業改善をする。特に、子ども同士が主体的にかかわり合い、自己の考えを深めたり高めたりする仕掛けをすれば、学び合い高め合う授業となり、児童に「確かな学力」が身に付くだろう。

《城北小がとらえる「確かな学力」を身につけた子ども像》

- ・既習事項や体験等を用いて学習問題に挑戦する子
- ・根拠を明らかにして自分の考えを表現できる子
- ・友達の考えを受け止めてさらに考えを深め、表現できる子
- ・理解したことや新たな疑問、次時への意欲を表現できる子

「かけがわ型スキル」を育むために構築をめざす

じょうほく型「新たな学びのプロセス」①～⑨

その① 授業過程の再構築

付きたい力・ねらいを明確にした授業『押さえる』

- ・学習指導要領や授業づくり指針が示す付きたい力に沿った本時の目標
- ・本時の目標を達成するための学習問題
- ・他学年、他教科との関連事項、既習事項の導入部分での工夫

主体的にかかわる中で自己の考えを深めたり高めたりする「学び合い」の実現『仕掛ける』

- ・子どもが自分の考えを持つための工夫（ワークシート、教具、既習事項の確認等）
- ・子ども同士でさらに考えを深めるための場の設定（ペアやグループの話合い等）
- ・子ども同士で考えを深めるための手段、方法が示されているか
- ・自分の考えの深化した内容や、意見の変化等を発表し合う場の設定

子どもが学びを実感できるふり返りの場の設定『確かめる』

- ・「まとめ」や「ふり返り」の時間の確保
 - ※「まとめ」…本時の学びの確認（一斉） 「ふり返り」…感想、新たな疑問、次時への意欲等（個人）
- ・本時の目標と学習問題と「まとめ」の整合性が図られているか

四部体制の推進による じょうほく型「新たな学びのプロセス」

学びづくり部

その② 言語活動の充実

- 金じろうタイム…「書く力をつける」活動 ○スピーチタイム…「話す力をつける」活動
- 各教科…言語活動で培った力を活用する

その③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得

- 授業で基礎・基本の定着を丁寧に行う ○「つきたい力」を明確にした授業
- 本校独自の「チャレンジテスト」による基礎・基本の徹底した定着
- 宿題の質・量の向上や家庭学習充実のための家庭への働きかけ

その④ 読書活動の充実と学校図書館を活用

- 読書の習慣化 朝読書の充実 読書ボランティアによる読み聞かせ
- 図書室を活用した授業実践…図書館司書・読書ボランティアとの連携

心づくり部

その⑤ 心の教育の充実

- 自己肯定感を高める かがやき賞 の授与
- 人間関係プログラムの充実

その⑥ 道徳教育の充実

- 「かがわ道徳」の実践の充実
- 道徳コーナーの設置・ふり返り
- 「なるほどなっとく金次郎さん」「この人に学びたい -掛川の偉人ものがたり-」の活用

体づくり部

その⑦ 健康教育・体づくり活動の充実

- 体カづくりの充実
自主的に取り組む GOGOチャレンジ・朝ランニング
- 生活習慣の意識を高める「健康食育の日」

特別支援教育部

その⑧ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校づくり

- じょうほく型スタンダード「授業づくり」「生活づくり」の推進
- 特別支援教育の情報発信

ユニバーサルデザインの視点での授業づくり・生活づくりは 城北小教育の基盤として行う

その⑨ 家庭（地域）への発信と連携

- 家庭への発信…各種たより ○家庭学習の充実…「家庭学習の手引き」
- 学校生活の約束…「城北小学校生活の約束」 ○あいさつ活動の充実

学年体制による推進（一年部・二年部・三年部・四年部・五年部・六年部・特支学級）

かがわ型スキル（思考力・問題解決力・意思決定力・コミュニケーション力・情報の選択・活用力・地域や社会の中で生きるためのキャリア体験）

- ・「かがわ型スキル」やユニバーサルデザインの視点を取り入れた「授業づくり」「生活づくり」、冀北の教え五か条等をもとに、授業や生活を構想し、実践する。
- ・児童が「確かな学力」や、さらなる向上心・たくましさを身に付けること、本校がより密に保護者・地域と連携することをめざす。
- ・教職員が率先して「質の向上」と「危機管理」に努め、児童に範を示す。



掛川市立第一小学校

平成29年度 我が校のものがたり

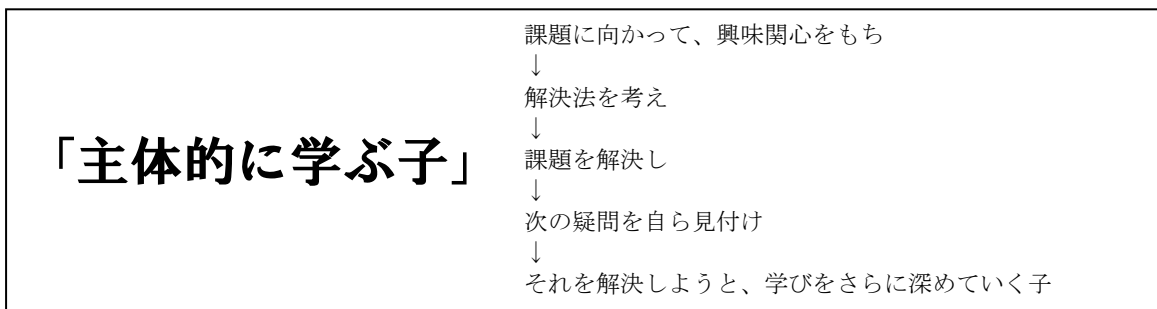
学校教育目標

夢・元気・思いやり
～夢をもち元気に活動する思いやりあふれる子～

重点目標

ともに学び合う

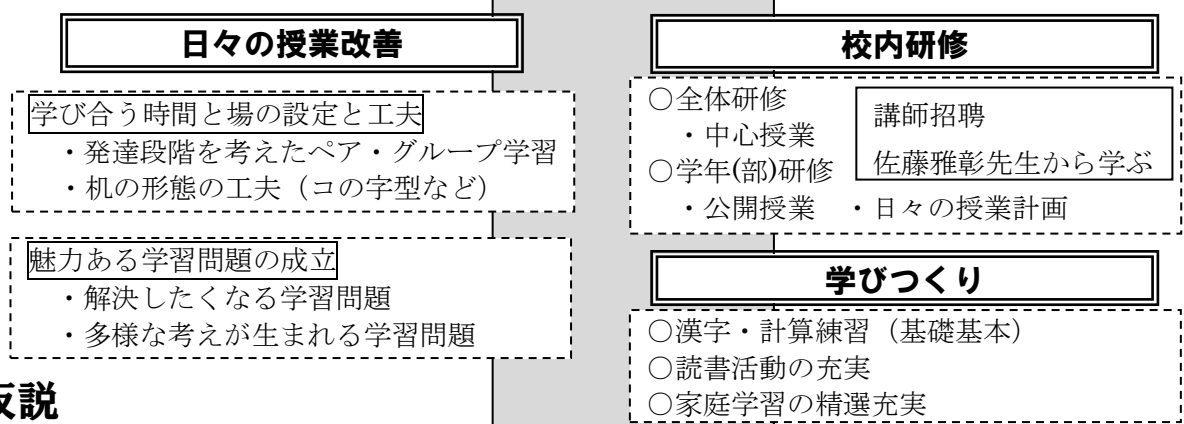
目指す児童の姿



研修主題

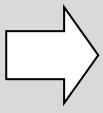
ともに学び合う
～「わからない」「どうして？」が言える子
「こう考えたよ」を言える子を目指して

研修方法



研修仮説

ペア・グループ学習などの学び合う場の設定と工夫をすることや、魅力ある学習問題が成立することで

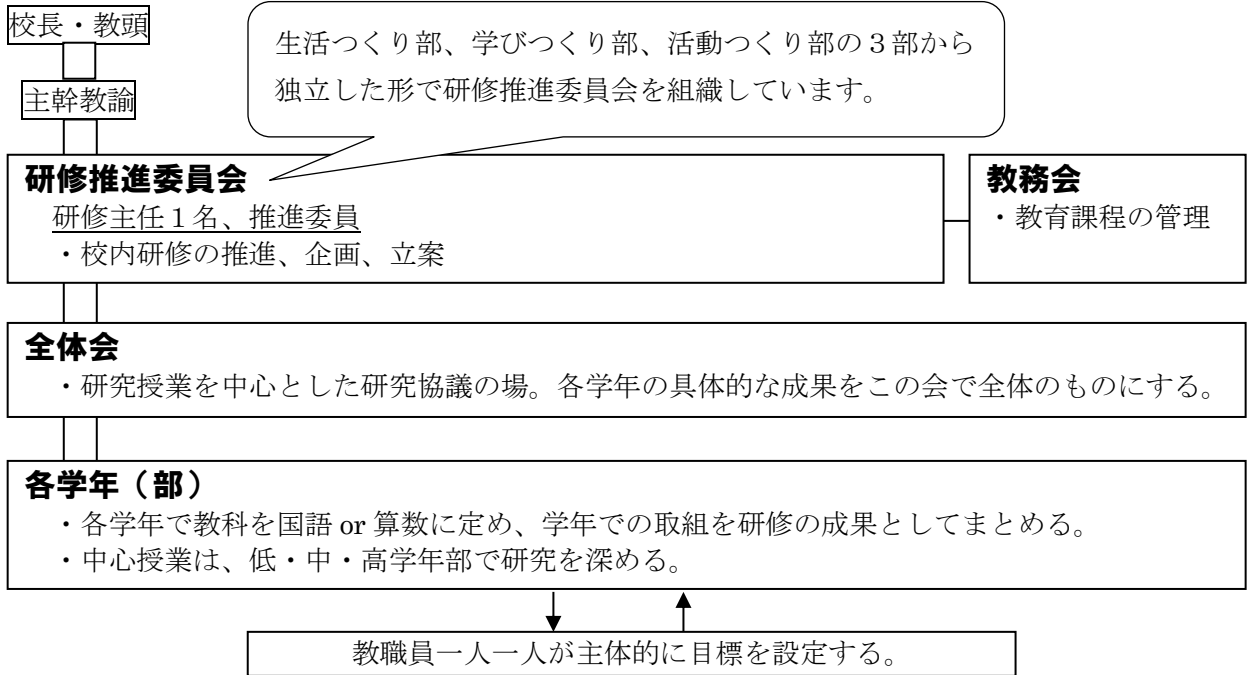


・「わからない」「どうして？」を言える子が育つだろう。
 ・「こう考えたよ」と言える子が育つだろう。

児童の実態

・課題に向かって一生懸命取り組む、真面目な児童が多い。
 ・授業や日常生活の場面において、自分の考えを言うことに消極的である。
 ・「自ら学ぼう」「○○について調べてみたい」という、主体的な姿勢は、あまり見られない。

研究組織



授業力の向上

「できた、わかった」を実感し、主体的に学ぶ意欲を高める授業

- ・日々の授業（1時間の授業）を大切にす。

- （居心地のよい学級・授業づくりのための「授業の心得」「教師の心得」を意識・実行する）
- ・「学びのユニバーサルデザイン」の視点に立った授業づくり（焦点化、視覚化、個への対応）
- ・生徒指導（一日の生活づくり、10個の約束）、学習の約束（学習に集中するために）の指導
- ・居心地のよい環境づくり（あいさつ・言葉の指導、教室環境づくり、よりよい集団づくり）
- ・家庭における読書活動の充実

家庭学習の精選充実

全家庭に配布し、どの学級でも、どの家庭でも同じように指導しています。

基本的な家庭学習の仕方を確認し、学習習慣を身に付け、基礎基本の確実な定着をはかる。

1・2年生は 30分！

掛川市立第一小学校

3年生以上は 学年×10+10分 をめざしてがんばろう！

力がつく家庭学習



学年	主な学習内容の例 (担任が児童の実態に合わせて家庭学習を出します。)	保護者の皆様をお願いしたいこと *学校と家庭が一緒になって子どもの学びを支えていきましょう。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本読み ○ 平仮名、片仮名、漢字の書き取り ○ 計算（カード、ドリル、プリント） ○ 読書 ○ 学校のことを話す ○ 休日…読書、日記、作文、上靴洗い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ できるだけお子さんのそばに寄り添い、相談ののったり、できたことを褒めてあげてください。 ○ 家の方に丸付けをお願いすることもあります。その場合、大人が丸をつけ、間違いはその場で正しく直すようにアドバイスをしてください。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本読み（教科書の音読）やカードの記入 ○ 漢字（書き取り、プリント） ○ 計算（ドリル、プリント） ○ 休日…読書、日記、作文、上靴洗い、手洗い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宿題をすべて終えたか、最後の見届けをお願いします。 ○ スキンシップを心掛けて、親子の時間を大切にしてください。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本読み（教科書の音読）やカードの記入 ○ 漢字（書き取り、プリント） ○ 計算（ドリル、プリント） ○ 自主勉強 ○ 休日…読書、日記、作文、自主勉強、上靴洗い、手洗い <p>☆ 自主勉強を毎日続けられるように努力する。 ☆ その場で答え合わせができるものは、自分です。間違いはそのままにしないで、その場で直す。なぜそうなるのか、きちんと理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音読を聞いてあげてください。 ○ 本読みカードは子どもが先に書き、後で保護者が内容を確認して記入してください。 ○ 間違いは正しく直すようにアドバイスしてください。（答え合わせと直しまだが学習です。） ○ ていねいに書くようにアドバイスしてください。 ○ 最後の見届けをおねがいします。

掛川市立第二小学校

平成29年度 我が校のものがたり

1 校内研修の充実

- ・ 研究主題：「主体的に学ぶ児童を育てる授業づくり」
- ・ 研究仮説：付きたい力に即した、効果的な「交流活動」を工夫することで、児童が主体的に学ぶであろう。

2 掛二小授業実践項目の徹底

各ステージで重点的に取り組む。ステージ終了時に反省し、到達度を集約する。

<笑顔ステージ>

- ・ チャイムで授業を始め、時間で終わろう。
- ・ 学習課題（学習問題）は赤、まとめは青で囲もう。
- ・ クラス全体に目を配って聴こう。

<挑戦ステージ>

- ・ 話す・聴くルールづくりをし、交流の土壌をつくろう。
- ・ 特別支援を基盤にした授業をしよう。
- ・ 教具を活用しよう。

<成長ステージ>

- ・ 板書計画を立てよう。
- ・ 子ども同士が交流する場を設定しよう。

<感謝ステージ>

- ・ 評価の計画をもとう。
- ・ 子どもの良さを見取り、子どもに返していこう。

3 少人数指導

- ・ 2年生、3年生、4年生、5年生、6年生を対象に算数授業において2C3T、3C4Tの少人数指導を行う。
- ・ 習熟度別クラス編成を基本として、単元により、編成を見直す。
- ・ 担任と級外職員で教材研究を行うことで、児童の興味関心をひく教材や課題を工夫したり、体験的な活動等、五感に訴える学習を展開したりして、一人ひとりの学ぶ意欲を高め、実感を伴った理解を深める。
- ・ 児童一人一人の学ぶ過程を重視し、やり遂げた達成感や充実感を味わわせ、より高い目標に向けて努力しようとする態度を育てる。

4 名文・詩文の暗唱

- ・ 名文、詩文に触れ、声に出して読む楽しさを感じ、語彙や表現方法を身に付ける。
- ・ 木曜日の朝学習の後に、各学級で暗唱や群読に取り組む。
- ・ 毎月の作品を全校で統一し、暗唱する。

5 対話レベル表の活用

かけ に しょう たい わ ひょう 掛二小「対話レベル表」	
レベル	話し方・聴き方
スペシャル	<p>相手の気持ちを考え、納得するように話す。</p> <p>「なぜかというと、…。」「詳しく言うと、…。」</p> <p>「見せて説明します。」「ここまでいいですか?」</p> <p>「まず、…。次に、…。最後に、…。」</p>
3	<p>相手と比べて、聴いたり話したりする。</p> <p>「〇さんに付け足して、…。」</p> <p>「～に似ていて…。」「〇さんと(少し)違って…。」</p>
2	<p>相手に反応して聴いたり、質問したりする。</p> <p>うなずく 首をかしげる 「もう一度言ってください。」</p> <p>「分かりました。」「似ています。」「拍手」</p> <p>「～が分かりません。」「～は、どういう意味ですか?」</p>
1	<p>相手を見て、聴いたり話したりする。</p> <p>～おへそを向けて、目の糸を合わせて。～</p>
基本	<p>黙って最後まで聴き、聞こえる声で最後まで話す。</p>

＜全校共通で「対話レベル表」を用いた指導を行う＞

- ・相手を意識した話し方、反応の仕方のスキルを教える。
- ・全校で統一した「対話レベル表」を用いることで、どのクラスでも、どの教師でも同じ指導をする。
- ・4・5月は全校で基本の「黙って最後まで聴き、聞こえる声で最後まで話す」に取り組み、学習の構えをつくる。
- ・レベル表を基に、各学級で良い話し方や反応の仕方を増やしていく。
- ・対話レベル表を活用しながら、ステージごとに各学年で、具体的な取り組みを考える。

6 読書指導

- ・全校統一で100冊達成を目指す。
- ・学年のおすすめ本リストに紹介されている本を10冊以上読み、読書の幅を広げる。
- ・毎朝8:00～8:10は読書タイムとして、静かに本と向き合う。(木曜日は除く)
- ・保護者と共に、家庭での読書「家読」をすすめる。

7 朝学習

- ・毎週木曜日8:00～8:10の朝活動の時間に、国語・算数等を実施する。
- ・学習内容の定着を図り、学力を向上させる。

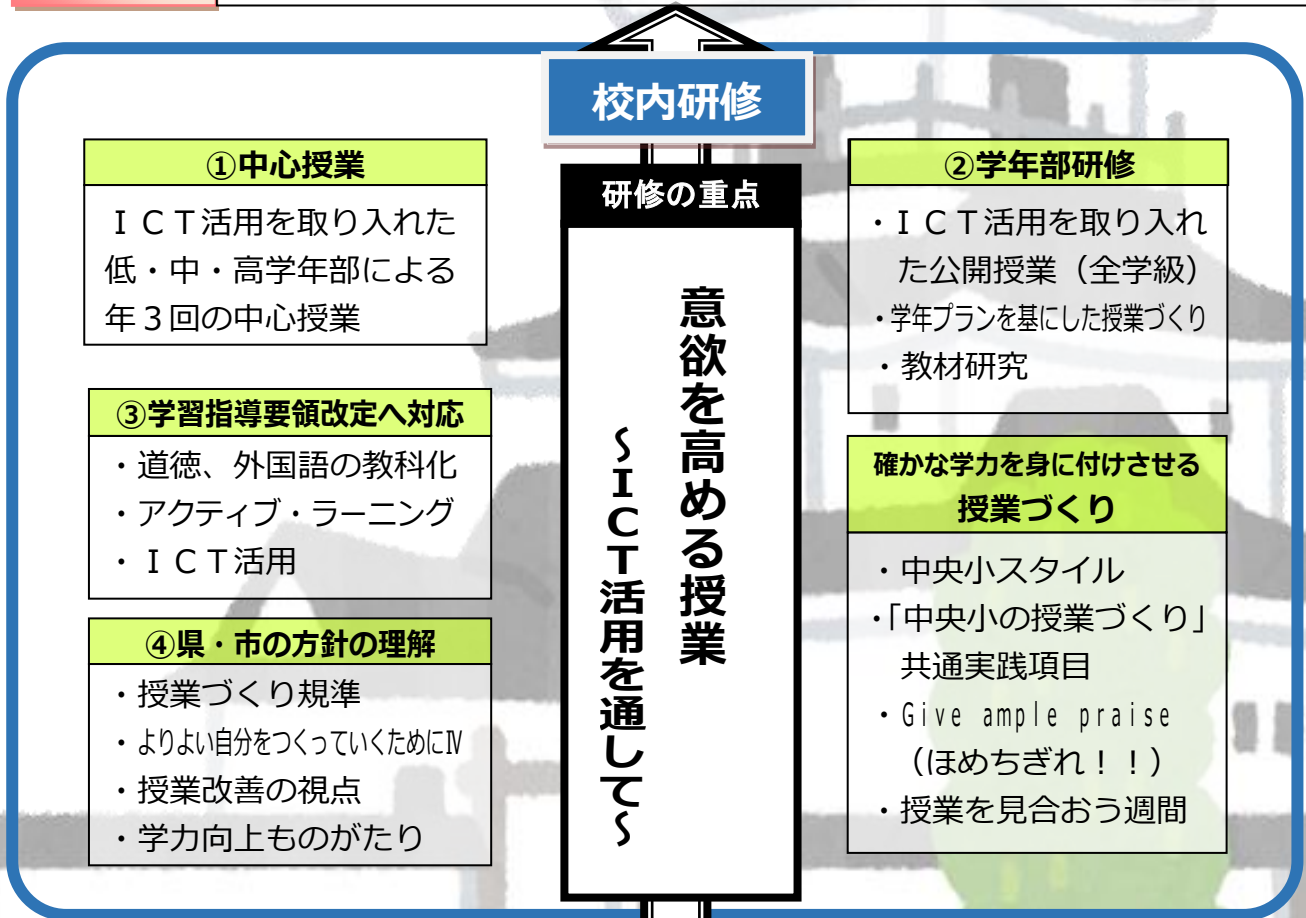
8 掛二っ子チャレンジテスト

- ・年3回(7月,12月,2月)国語テスト、算数テストを行い、基礎・基本を定着させる。
- ・国語テストは、漢字、文法などの基礎・基本の問題。
- ・算数テストは、計算、図形等の基礎・基本の問題。
- ・50題程度を基本として、学年ごとに担任が問題を作成する。
- ・合格ラインは9割正答を基本とし、合格するまで指導する。


掛川市立中央小学校

平成29年度 我が校のものがたり


学校教育目標	夢だいて はげましあう子
重点目標	笑顔いっぱい ~チャレンジ やりぬく 自信~
研修テーマ	「主体的に学ぶ子」の育成



研修の土台



I C Tを活用した授業力



【3 B I G の推進】

B I G E Y E S (受容)
B I G V O I C E (表現)
B I G H E A R T (意欲)



伝え合う力

(H28 研修テーマ)

【学習環境の整備】

- ・ 学習の約束
- ・ ドリルタイム
- ・ 家庭学習の手引き
- ・ Weekend 漢字 try
- ・ ステップアップタイム

◆研修テーマに沿った授業づくり

本年度は、研修テーマ『「主体的に学ぶ子」の育成』を目指し、研修の重点『意欲を高める授業～ICT活用を通して～』に取り組んでいく。前年度までに研修とまなびづくりで取り組んできた『伝え合い』&『3BIG』を土台に、校舎改築に伴い ICT 化が進んでいく本校の強みを生かして研修テーマに迫っていく。

ICT 機器の活用により、意欲が高まっている児童の姿を以下のように設定し、共通理解している。

・大画面に教材を表示→「おもしろそう!」「やってみたい!」
・大画面での一斉表示→「他の子の考えを知りたい!」「ぼくとはちがうな…なんでかな?」
・小集団でのタブレット使用→「もっとわかりやすくまとめよう。」「こっちの方がわかりやすい!」「OOさんの考えも入れよう。」
・タブレットによる提出→「何回でも挑戦できるぞ!」「時間がたくさんあるからもう1回やり直してみようかな。」「ぼくの考えを絶対に見てもらえるからうれしい!」



教師が ICT 活用のための技能を身に付けると共に、児童が「主体的に学ぶ」ための手立てとして ICT 機器を効果的に活用できるように、実践を積み重ね、そのあり方を模索する 1 年目としたい。

◆校内研修の充実

年 3 回の中心授業、一人 1 回以上の公開授業を年間計画に位置づけている。また、計画的に学年研修を行い、教材研究の日常化、共有化を進める。お互いに教室を見合ったり、教材やノート、板書写真等を持ち寄ったりするなど、掲示や教具のアイデア、板書の仕方等を学び合う。

◇「3BIG」いっぱいの子の育成

中央小では、学校生活の中で願う児童の表れとして、「3BIG」という言葉で児童と共に共通理解している。今年度 4 項目に精選して、ステージごとのまなびづくりの重点としている。教室前面に掲示し、目指す姿として活用。

BIG EYES	BIG VOICE	BIG HEART
思いを受け止める	分かりやすく伝える	意欲的に活動する
"BIG EYES" 	"BIG VOICE" 	"BIG HEART" 
相手の方を見て	みんなの方を見て	ねえねえ、教えて!
じっくり最後まで	はっきり最後まで	自分からやろう!
反応を返しなが	反応を確かめなが	ぼんぼん発表!
比べながら	理由が伝わるよう	やる気いっぱい!

◇「BIG VOICEで説明名人」表の活用

児童にとっては「話す」「書く」の表現力向上のための「型」である。この表に示された表現を意識して使用することで、児童が表現の幅を広げ、いずれ自分の言葉として使いこなすことができるように期待して作成されたものである。

◇期末ドリルタイム・朝ドリルタイム

毎週月曜日の朝活動の時間を「朝ドリルタイム」として設定し、漢字定着のための時間として活用している。またステージ末の 1 週間は「期末ドリルタイム」として、基礎学力の定着を図る時間として、プリントや小テストを行っている。

◇「学習の約束」「家庭学習の手引き」

学習環境を整えることと家庭学習（宿題＋自主勉強）のモデルとして各家庭に配付し、掲示してもらい周知を図っている。

◇Weekend 漢字 try

定着度調査の反省から、昨年度学習した漢字の定着に課題が見られた。そこで、週末の家庭学習に昨年度学習した漢字の内容を取り入れ、定着を図るようにした。

高学年用		
BIG VOICEで説明名人!		
自分の伝えたいことを、もっともっと分かりやすく伝えるために、こんな言い方があります。		
名前		
1	答えや結論を先に言う	私の考えは…です。理由は…私には…がいいです。
2	順序よく言う	まず(最初は)…です。次は…です。最後に…です。
3	友達の見解につけて言う	～さんと同じで…です。～さんと似ていて…です。～さんと少し違って…です。～さんにつけて…です。～さんに賛成/反対で…です。
4	例えて言う	例えは…だと…の理由は…今回は…もし、～だったら…です。つまり、…です。
5	友達の見解をまとめて言う	要するに、…です。まとめて言うと…です。
6	前の学習と比べて言う	Oの場面では～だったけど…～のことをつかって考えると…～したと比べて…です。
7	聞いている人たちの様子を確かめながら言う	ここまどうですか? Oページの口を見てください。～でしょ?
8	問いかけながら言う	(Oさん)、～はわかりますか? (Oさん)、口はどうなりますか?
9	黒板に書きながら言う	

◇ステップアップタイム

月に 1 回、補習の時間を設けている。学習の定着が図れていない児童や補習を希望する児童を対象に行っている。

◇「中央小の授業づくり」共通実践項目

教師が日々の授業づくりで意識する 10 の内容を共通理解し実践することで、授業の質の向上を目指している。

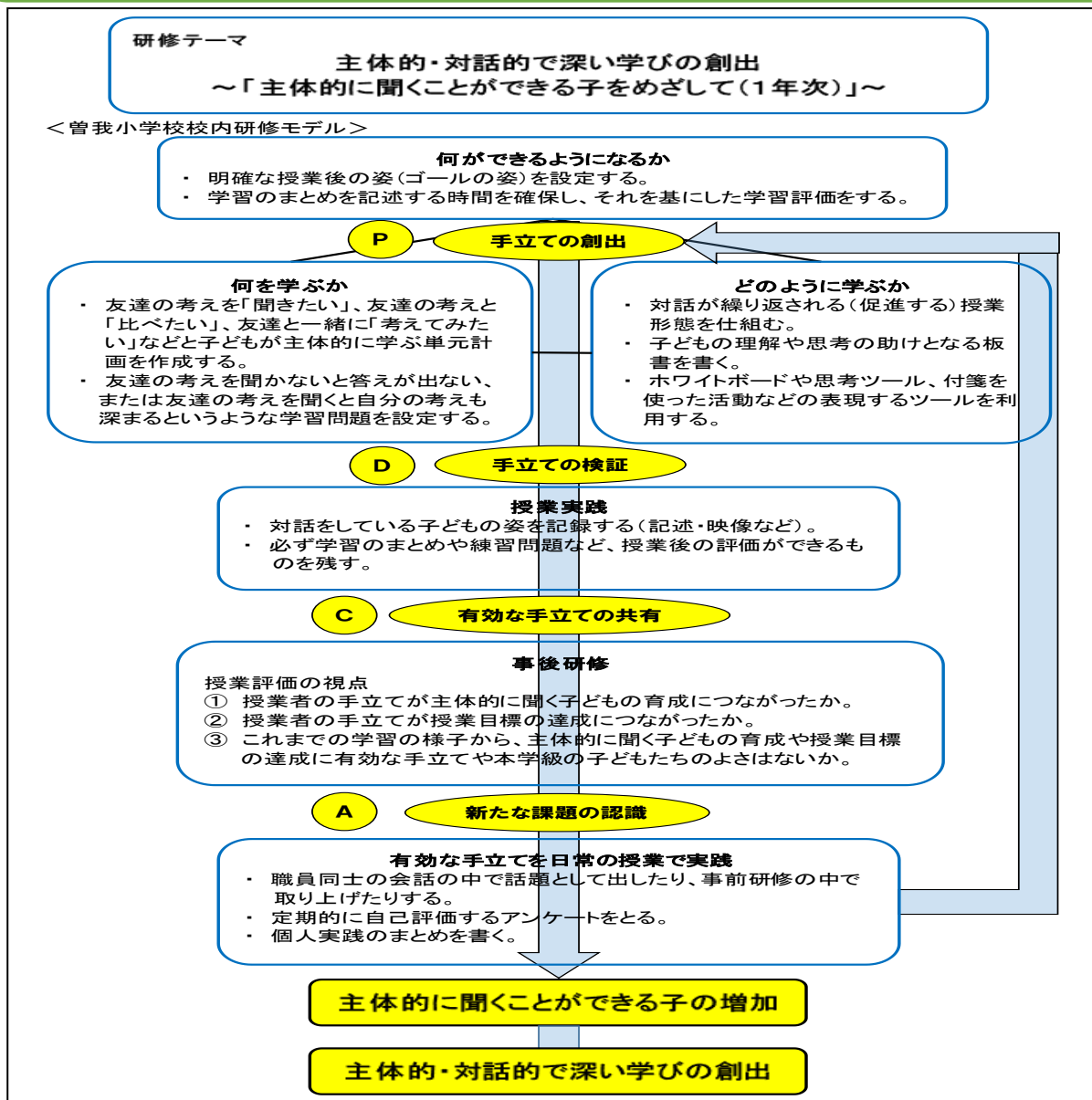
掛川市立曾我小学校

平成29年度 我が校のものがたり

本年度の曾我小学校では、研修テーマ「主体的・対話的で深い学びの創出
～「主体的に聞くことができる子をめざして（1年次）」～
の実現に向けて、教師の様々な手立てを追究します。

めざす子どもの姿

- ・ 話し手の方を見て聞くことができる子（学習3）
- ・ 話し手の考えと自分の考えを比べて聞くことができる子（付け足し・反対などを使って表現できる等）
- ・ 話し手の考えを詳しく引き出すことができる子（反応する・質問する・言い換えること等）



曾我っ子の課題

- ・ 体験や経験を言葉と結び付けて生き生きと豊かに表現できない。
- ・ 自分の言葉にして伝えたいという思いが弱く、十分な言葉を用いて伝えることができない。
- ・ 自分の考えが十分に深まらず、成就感を感じている様子が見られにくい。

課題を解決するために、曾我小では以下のように授業をデザインしています。

主体的に聞く子どもを育成するために、新学習指導要領の見直しの視点にもある3つの観点「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」から手立てを考えた。

① 何を学ぶか（平成29年度）

- ・ 友達の考えを「聞きたい」、友達の考えと「比べたい」、友達と一緒に「考えてみたい」などと子どもが主体的に学ぶ単元計画を作成する。
- ・ 友達の考えを聞かないと答えが出ない、または友達の考えを聞くと自分の考えも深まるといような学習問題を設定する。

例：多様な解答が存在する問題、「どうして」「なぜ」と問う理由を解明する問題、学習してきたことを活用する問題、価値を判断する問題、一人では説明することが困難な問題など

② どのように学ぶか（平成30年・平成31年度）

- ・ 対話が繰り返される（促進する）授業形態を仕組む。
- 例：一斉場面における机の配置、授業者の切り返しの発問、意図的な指名、話し合いの機会を増やす小グループ活動など
- ・ 子どもの理解や思考の助けとなるような板書を工夫して書く。
 - ・ ホワイトボードや思考ツール、付箋を使った活動、立場を明確化するためのネームプレートなどの表現するツールを利用する。

③ 何ができるようになるか（積み重ねて31年度には達成できるようにする。）

- ・ 明確な授業後の姿（ゴールの姿）を達成する。
- ・ 学習のまとめを記述する時間を確保し、それを基にした学習評価をする。

日常的な学習指導

【学習3の徹底】

学習3

- ・ 聴き手を見て話す
- ・ 話し手を見て聴く
- ・ 学習用具をそろえる

【朝の国語学習】

- ・ 漢字の習得・文章を書く読む
- ・ 言葉の使い方
(主語・述語・修飾語)

【聞く話すのスキルアップ】

- ・ 聞き方・話し方の
レベルアップ表を用いた指導

【朝の算数学習】

- ・ 計算問題
- ・ 前学年の復習

【読書指導】

- ・ 年間100冊（低学年）
- ・ 年間学年×1000ページ
(高学年)
- ・ スペシャリストをめざす
- ・ 親子読書の取組

掛川市立桜木小学校

平成29年度 我が校のものがたり

学校教育目標 大志 共生 挑戦

重点目標  チャレンジいっぱい 笑顔いっぱい

1 「やりますアクション」 をプロデュース

桜木小では、子どもの主体的なチャレンジを「やりますアクション」と表現し、日々価値づけている。そして教育課題を、

<p>教育課題1<知> 学んでいく子 桜木型AL (主体的・対話的な学び) 「もっと学びたい」を感じる授業 (深学) 正しく美しく話す日本語力</p>	<p>教育課題2<徳> 気づいていく子 すばら3 (あいさつ そうじ 親切) みんなの約束</p>	<p>教育課題3<体> 鍛えていく子 運動チャレンジ (体力) 体の日 (健康) 心の日 (安らぎ)</p>
--	--	---

としている。「学ぶ子」ではなく、「学んでいく子」である。その違いは主体性があるか否かである。このように桜木小では、「子どもたちの主体性」こそ重要な学力と考え、3部体制 (学び部、気づき部、元気部) で子どもの主体的なチャレンジ「やりますアクション」をプロデュースしていく。

桜木小職員は、「学んでいるね。」「気づいているね。」「鍛えているね。」…「やりますアクションだね。」を口癖にし、子どもたちの主体性を価値づけていく。これらの言葉は、桜木小独自のものとして根付かせていく。

2 「対話で交流」から「対話で解決」へ <校内研修>

研修主題 「どの子も学び続ける授業の創造」

=桜木型アクティブラーニングで実現させる 主体的・対話的で深い学び=

桜木小では、主体的・対話的で深い学びを生み出していく授業をめざし、「桜木型アクティブラーニング」と題し、授業改善に取り組んでいる。昨年度から、「まずは対話」からを合い言葉に授業改善を始めたが、

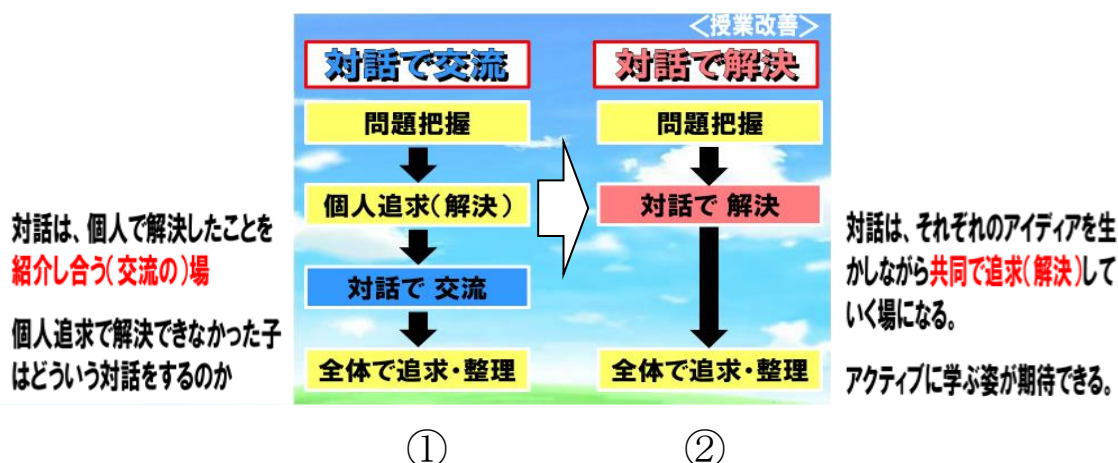
△ 対話の時間は自分の考えの紹介に終わってしまう。何も話せない。

△ 考え合う場にならず、新たな考えが生まれない。

主体的・深い学びにならない

等の課題が生まれた。これは、①「個人追求→対話」という授業過程にしたことが要因であると考えられた。そこで個人追求の時間を止め (個人追求を対話の中に含める)、②「対

「話で解決学習」のスタイル＝桜木型アクティブラーニングへ、授業過程の再構築を研修する。



3 主体を支えるために

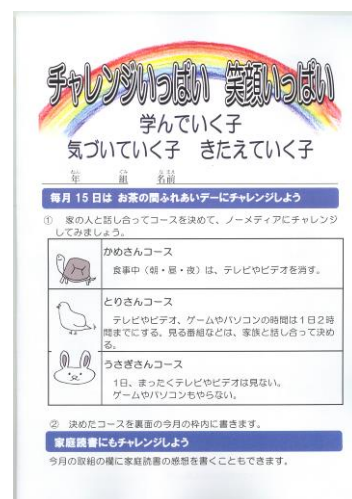
- ・ 授業三原則の徹底「授業準備、チャイム席、はい！の返事」
- ・ 基礎基本の定着 「のびのびテスト」ステージ毎に実施
- ・ 全校、各学年で設定する「〇〇チャレンジ」
 - 例 1年：計算チャレンジ 2年：九九チャレンジ
 - 3年：ローマ字チャレンジ 4年：県名チャレンジ
 - 5年：世界地図チャレンジ 6年：歴史人物チャレンジ
 - 全校：縄跳びチャレンジ ランニングチャレンジ・・・等

4 対話を支えるために

- ・ 分からない「？」の奨励
- ・ 「対話レベル表」、「対話モデル」で目指す姿の視覚化
- ・ 対話グループの構成を検討
(ペア、3、4人組 発達段階を考慮して)
- ・ 対話で解決の援助となる方法の検討（具体物、学習シート）等

5 家庭学習支援

- (1) 「桜が丘学園 家庭学習の手引き」
全家庭に配布し、発達段階に沿った具体的な手立てや支援の方策を伝えて、家庭でも学習を進める環境を整える。
- (2) 「お茶の間ふれあいデー」毎月15日
メディアから離れ、親子で会話を楽しんだり、本を読んだりする場を作るように、家庭に呼びかける。「Eじゃんかけがわ」でも、その取り組みを紹介する。



掛川市立和田岡小学校

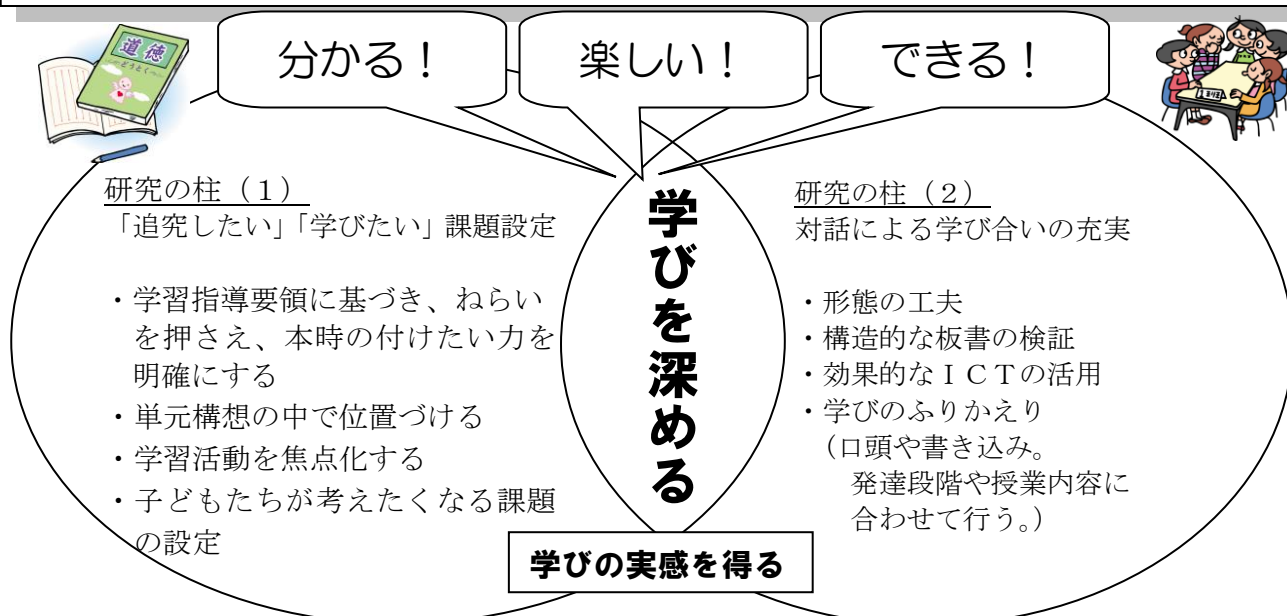
平成29年度 我が校のものがたり

研究テーマ みんな楽しい！分かる！できる！授業づくり

～友達と関わりながら、主体的に学びを深める子の育成をめざして～

研究仮説

- (1) 子どもたちが「知りたい！」「学びたい！」という意欲を自然にもつことができる課題であれば、追究する活動を楽しみながら学ぶ子を育てることができるだろう。
- (2) 友達の見解につなげたり、比べたりしながら深い学びを生み出す対話につながるような「仕掛ける場」を設定することで、より学びを深めていく子どもの姿が見られるだろう。



授業5原則 (桜が丘学園共通)	学びのUD「わだおか支援」(教師の意識)
①開始時刻を守ろう	わ：どのこにとってもわかりやすい (指示・活動)
②きちんとあいさつをしよう	だ：だまって動ける (指導・環境整備)
③進んで表現しよう	お：おもいやりがある (温かい人間関係)
④人の話を集中して聴こう	か：かんがえたいくなる (発問・仕掛け)
⑤忘れ物をなくそう	☆学びのUDの考え方 (視覚化・焦点化・個への支援)
インクルーシブ教育 (ほめて伸ばそう言葉のシャワー・どの子も学びやすい学習環境)	

学びづくりの取組との連携

- 語彙の拡張 (読書、国語辞典の活用、詩・俳句)
- 話す・聴く (音読、「話し方・聴き方名人カード」)
- テスト・調査 (学力調査、確かめテスト、定着度)
- 補充学習 (ぐんぐんタイム、放課後学習支援)

体験活動・地域との連携

- 地域の人材・教材に学ぶ「生活科・総合的な学習の時間」
- かけがわ道徳をふまえた「道徳教育」(別業の活用)
- コミュニケーション力を高める「外国語活動」
- 縦の接続を生む「学校行事」

かけがわ型スキル ～かけがわ茶モデル～

課題設定

授業設計診断表の常時活用

対話による
学び合い

2017わたおか授業スタイル

「みんな楽しい！分かる！できる！授業」

学びのユニバーサルデザインを重視した授業

<p>導入・課題・問い(5分)</p>	<p>押さえる</p>	<p>◎「解決したい課題や問い」の設定</p> <p><授業前> ○学習指導要領解説をよりどころに、単元でつきたい力や本時のねらいを明確にする。</p> <p><授業で> ○「考えるための材料」を提示する。 ○「解決の見通し」を持たせる。</p>
<p>追究(25分)</p>	<p>仕掛ける</p>	<p>◎「対話と思考」の充実</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">ICTの積極的な活用</p> <p><学びの姿></p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣の子と自然に話し合っている。 ・友達の発言に自然とつぶやいている。 ・意見を伝え合う。誰かの発言に付け足したり、反論したりする。 ・自分の言葉で説明したり、疑問を出し合ったりする。 ・集団追究の場において、自分の考えを進んで伝える。友達の考えをじっくり聞いて取り込もうとする。 ・誰かの発言を元に、つなげたり、新しく気づきひらめいたりするなどが起こる。そのことにより、対話や交流が広がる。 ・自分たちで課題や疑問に対する答えを検証するときに、互いに自分なりの意見を伝え合う。 ・子ども同士が説明したり、考えあったりする中で「あ、そうか…」「じゃあ、こういうこと？」「つまり…」「あ、分かった。」等のつぶやきが多く出る。 <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>筋道を立てて論理的に考える</p> <p>互いの考えを伝え合う</p> <p>自分の考えを自分の言葉で表現する</p> </div> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">言語活動の充実</p>
<p>まとめ(10～15分)</p>	<p>確かめる</p>	<p>◎「学習の成果」が実感できる振り返り</p> <p>○まとめやふりかえりで、子どもがどういうことを書けばよいのか明確に提示・指示する。(＝評価基準の明確化)</p> <p>○学んだことを自分の言葉で表現する。</p> <p>○実生活や実社会とどう結びつき、どう活用できそうか振り返る。</p> <p>○新しい課題や、さらなる疑問をもつ。(またはそれを検証しようとする)</p>

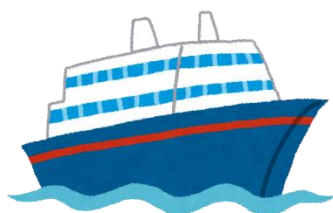
主体的・対話的で深い学びの授業設計(授業過程の質の向上)

～全職員で 日々の授業で プチ授業改善を積み重ねよう～

掛川市立原谷小学校

平成29年度 我が校のものがたり

5つの羅針盤



本校の子どもたちは、素直で明るく一生懸命取り組む子が多い。表現力も豊かである。この豊かな表現力を生かし、学習の構え、学力の基礎基本を身に付け、「とことんチャレンジ みんなで笑顔」を目指していく。

第1の羅針盤



◎学びの構え

○主体的に学ぼうとする子を目指す

- ・授業像をつくる。
「〇〇したい」いっぱい授業をつくらう
- ・学級の授業像を話し合い決める。
- ・目と耳と心で聴く。

第2の羅針盤

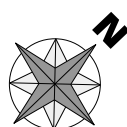


◎研修の充実

○「主体的に学び合う子」を目指す

- ・付けたい力を明確にした単元・学習活動の展開
- ・とことん学び合いをしたくなる発問の工夫

第3の羅針盤

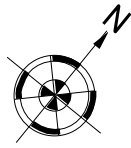


◎基礎学力の定着

○基礎学力の定着を目指す

- ・朝のスタディタイム（国語・算数のプリント学習）
- ・チャレンジテスト
（4月・6月・11月・1月の漢字、計算テスト）
- ・ステップアップタイム（金曜放課後学習）
- ・夏季チャレンジ学習（夏季休業の個別学習）

第4の羅針盤

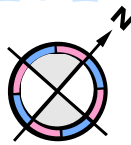


◎読書活動の推進

○読書好きな子を目指す

- ・朝読書（火・木曜日）
- ・読み聞かせ（火曜日）
- ・読書貯金目標達成賞(目標を達成した児童を賞揚する)
- ・あい読の推進（本校独自の読書日記）
- ・図書集会（年2回実施）

第5の羅針盤



◎家庭・学校・地域の連携

○原谷を大好きな子を目指す

- ・地域体験学習
（3年お茶摘み・4年原野谷川調査
5年お米作り・6年あんり訪問）
- ・学習ボランティア支援（ミシンボランティア等）
- ・学習習慣の定着

〈目指す子どもの姿〉

- ・自分の目標に向かって前向きにがんばるようになった。
- ・授業で自分の考えを発表したり、友達の考えを聴けたりするようになった。
- ・漢字が書けるようになり、計算問題が解けるようになった。
- ・読書量が増え、本を読むことが好きになった。
- ・原谷小が大好きになり、「学校のためにがんばろう。」と思うようになった。



〈目指す教師の姿〉

知識・技能の習得と思考力・判断力などの育成のバランスを重視し、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養っていきたい。日々の授業の充実のために積極的に授業研究を行い、「チーム原谷」の学校体制で切磋琢磨していきたい。



掛川市立原田小学校

平成 29 年度 我が校のものがたり

1 本校がめざす「学力向上ものがたり」

学校教育目標

自ら考え みがき合う子

重点目標

とことん やりぬく子

研究主題

とことん 学び合う子

研究主題

について

平成 28 年度は、児童が「なるほど・わかった」を実感し、教科の基礎的・基本的な知識を着実に身に付け、それを使って問題を解決していく思考力や判断力、表現力を育てていくことができる授業を実践していくべきであると考え、国語科を窓口として研修を積んできた。

原田小の子どもたちは、素直で真面目に授業に取り組むことができる。県定着度調査の結果からも、基礎的基本的な学習内容の定着は図られていると言える。そこで、この子どもたちをさらに伸ばしていくために必要なことは、今よりも更に主体的に学習に取り組むことであると考えた。

子ども自らが深く思考し、表現し、判断し、わかり合う中でこそ子どもの学びと自信は深まると考え、平成 29 年度は、子どもが「とことん学び合う」を研究主題と設定する。自分の考えをつくろうと「とことん考える」、自分の考えを「とことん伝える」、よりよい解決まで「つながり、共にとことん追究する」、基礎基本の定着が図られるまで「とことん繰り返す」を子どもに求めるとともに、教師も「とことん」子どもに対する姿勢を持ち続けたい。

このような授業実践のため、より論理的な思考の構築、表現に適した教科として、研修の窓口を「算数科」とし、算数科で培った力を他教科へも生かしていけるようにすることをねらいとしていく。

【原田小学校がめざす姿】

とことん「考える」 とことん「伝える」 とことん「追究する」
学びの姿

2 学力向上の具体的な取組

<授業改善の推進>

「押さえる」「仕掛ける」「確かめる（子どもの振り返り）」「つなげる（価値付け）の視点に沿った授業改善を推進し、子どもを中心に据えた楽しく分かる授業の創造に努める。

ア 小中9年間の系統性を押さえ、付きたい力を明確にした指導。

学習指導要領と教材とを照らし合わせ、指導の目標を具体的にし、目標、学習課題、評価の一体化を図る。

イ 自分の考えを持たせる時間の確保と方法の指導。「つくる」

文章題・式・図・表などから、根拠をはっきりとさせた自分の考えを作る力の育成を図る。

ウ 自分の考えを相手に伝える力の育成。「つたえる」

算数的表現（図・式・表など）を活用して、自分の考えをわかりやすく表現する力の育成を図る。

エ 意見をつなぐ学び合いの場の設定と指導。「つながる」

自分たちで意見や反応をつなげ、問題を解決していく力の育成を図る。

<学習活動の工夫・充実>

学習の計画と見通し・問題解決・練り合いを大切にした授業づくりに努める。体験活動や小集団学習、ICTなどを授業の中に積極的に取り入れ、友だちと協同しながら、ひとりひとりの子どもが活躍できる授業づくりを行う。

・体験活動 ・小集団学習（ペア学習、グループワークなど） ・ICTの活用

<基礎・基本の定着>

学習指導要領に示された学力観や内容、系統性を押さえ、適切に評価し、付けるべき力が着実に身に付く授業の構築に努める。

（ア）週1回の朝のドリルタイムの中に「計算練習タイム」を設定する。

（イ）年4回既習事項の定着を図る「とことんテスト」を行う。

（ウ）「とことんテスト」「定着度調査」「全国学力学習状況調査」の結果を分析し、指導に生かす。

「はらのや学園家庭のものがたり」

- ・学習ノートやよい学びの紹介
- ・学級通信や参観会での情報発信
- ・はらのや学園学びのてびきの活用
(学びの手引き・学びの5か条)

学習の構えの確立

授業に向かう学習の構えの確立



主体的・意欲的に学ぶ子どもの姿

温かな人間関係を土台とした支持的風土を育む学級づくり

人間的ふれあいを感じる場づくり
共感的な人間関係を作り出す場づくり

自己決定をうながす場づくり
地域に生きることを感じる場づくり

掛川市立西郷小学校 平成29年度 我が校ものがたり

西郷小の子どもたち

- 見通しを持つと、真面目に取り組む。
- 音読は繰り返し練習することで上手になってきている。
- 説明文の読み方の基本や用語を理解し、使えるようになってきた。
 - 自分の考えが持てず、表現することが苦手な子がいる。
 - 個人差が大きく、個への支援が十分行き届かなかった。



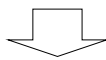
学校教育目標 「かがやけ!じっくり にこにこ とことん」

校内研修の充実と日常的な授業改善

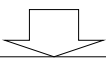
○研修テーマ「読む力を付ける指導



～自分から考え、動き出す姿を目指して～



つけたい力を明確にし、そこに迫るための手立てを工夫していけば、子どもが自分から考え、動きだし、身についた力を使って説明的文章や文学的文章を読む力を伸ばすことができるだろう。



単元で身につける力を明確にする。

子どもが考えたくなくなり、読みたくなる導入、学習問題、展開を検討する。

既習の方法を生かして読み、新たな読み方の必要性を持たせて指導する。

子どもの考えのずれから問題を焦点化し、読みを深めて解決する発問を考える。

一人一人が自分の考えを持てるよう、ペアやグループで考える効果的な場を設定する。

授業のまとめを大切にし、子どもに学びの実感が得られるようにする。

重点目標
考え 動き できるをふやす

基礎基本の定着

音読タイム

- 朝の会の最初に声だしタイム
 - ・よい発声の仕方
 - ・はっきりした話し方
- 以上2点をねらいに全校で取り組んでいます。



話す・聴く・書く力

- 「聴き方・話し方・書き方」の表をもとに始動する。
- 発達段階に応じて、子ども達の基礎的なレベルアップを日々の授業で図ります。



かがやきタイム

- 火曜日朝のドリル学習
- 反復練習することで、基礎的な内容が定着するように取り組みます。



チャレンジテスト

- 年2回長期休業前に、国語・算数の基礎基本の定着を見取り、その後の指導に生かしています。

家庭学習

- 「家庭学習の手引き」を配布
- ・めざす家庭学習時間「学年×10分」と設定
- ・主な学習内容、保護者の支援について低・中高学年に分けて提示

鳥井町立南郷小学校

家庭学習の手引き

読書の習慣をつけるためには、学習での学習、読む力が大切です。この家庭学習の手引きを活用して、お子さんと一緒に家庭学習の習慣をつくらせましょう。

★子どもの約束...集中して取り組もう!

- 机の上、机の上を片付け、学習に集中できるようにする。
- 学習時間の目安を参考に、集中して学習する。

1~3年	4年	5年	6年
30分	40分	50分	60分

- ながら学習をしない。物を食べながら× 遊びながら×
- 家族もテレビ・音楽・携帯電話・パソコン・ゲームの電源を切る。
- まず、授業に送り出し、終わった時間は、自主学習をする。中高学年は、勉強の時間を中心に、宿題を持ち寄りをして取り組まそう。
- 次の日の授業の準備、持ち物の確認をする。

★お家の人へのお願い
見届けと励ましをお願いします!

低学年	中・高学年
そばで見守り、声をかける。	学習が終わったら、かみそりや歯磨き、声かけを。

子どもが家庭学習の習慣をつけるためには、保護者の方の協力が必要です。この手引きを活用して、お子さんと一緒に家庭学習の習慣をつくらせましょう。

やることをきちんとやった時は、当たり前のように、ほめてあげてください。

重点目標
考え
動き
できるをふやす

掛川市立倉真小学校

平成29年度 我が校のものがたり



教育目標

かがやく子

重点目標

自分からもう一歩！ みんなで大きな一歩！

かけがわ型
スキルNo.

金次郎プロジェクト

かけがわ型スキル

- 1 思考力
- 2 問題解決力
- 3 意思決定力
- 4 コミュニケーション力
- 5 情報の選択・活用力
- 6 地域や社会の中で生きるためのキャリア体験



児童会組織

- ・じまんのあいさつ
- ・縦割り活動
- ・子どもの思いを生かした特別活動

2



キャリア教育

- ・清掃活動
- ・金次郎ボランティア
- ・地域人材の活用

6

学級活動の充実

- ・人間関係づくりプログラム
- ・子ども主体の自治的活動

4

金次郎魂
(報徳精神)



心とからだの教育

- ・生活リズムの確立（家庭と連携）
- ・体力づくり（授業、業間、行事等）
- ・参加型人権学習
- ・学校保健委員会

2, 4, 6

道徳の充実

- ・「私たちの道徳」「かけがわ道徳」の活用
- ・「なるほどなっとく金次郎さん」
- ・道徳コーナーの設置

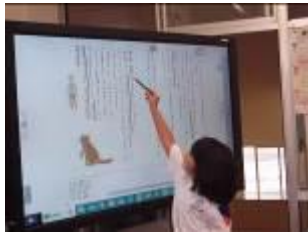
3



人間尊重の教育

- ・「生きる力＝自治力」の育成
- ・家庭、地域との連携
- ・特色ある学校づくり

4, 6



冀北プロジェクト

子ども主体の授業

- ・ 目指す授業像の揭示
- ・ 聞く、話す、書くの学習スキルの習得 (短冊の揭示、系統的な指導)

1, 2
3, 4

基礎基本 (ドリル学習)

- ・ 朝計、朝漢、朝文による基礎学力の積み上げ
- ・ 冀北テスト (年4回) による定着の確認
- ・ 長期休業中の補習学習 (寺子屋)
- ・ 全学年共通のノート指導、ノート展 → 文を書くのが楽しい子の育成



音読指導

- ・ 詩の音読 (週3回)
- ・ 音読チャレンジ週間の設定 (毎月)

4

読書活動の充実

- ・ 朝読書 (週3回) → 読書記録を残す
- ・ 読み聞かせ (教師、ボランティア)
- ・ 身近な図書コーナーの設置 (2・3階)

1

冀北学習

- ・ 主体的な課題設定で倉真地区のよさを再発見
- ・ 体験を伴った探究活動
- ・ 「冀北発表会」で地域に発信

1, 2
3, 4
5, 6

研修の充実

- ・ 学びのユニバーサルデザインを重視した授業
- ・ 説明する力を身につけた子の育成
- ・ 子ども主体によるICT機器の効果的な活用
- ・ 少人数学習のよさを生かした授業

1, 2
3, 4
5

課題調査の分析

- ・ 学力調査結果の分析を基にした課題の検討
- ・ 授業改善 (押さえる、仕掛ける、確かめる)

1, 5

家庭学習支援

- ・ 「家庭学習の手引き」を基にした家庭と学校の共通実践
- ・ 授業日記で授業を振り返り、次の学びに生かす
- ・ 倉真っ子チャレンジカードの活用 (生活習慣・進んで家庭学習)

6

掛川市立土方小学校 平成29年度 我が校のものがたり

「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」

の花を咲かせよう！

土方小「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」の花



- 確かな学力（学習に係る基礎基本の定着）
- 自ら学ぶ学習意欲
- 課題解決に向けて粘り強く取り組む問題解決力

土方小では、「学習の意義がわかり、各学年の基礎的・基本的な学習内容と態度を定着させようとする積極的な学習参加と、互いに切磋琢磨して学習する共同体意識をもつ子」を目指す児童像の一つとして掲げています。

本校の我が校のものがたりでは、「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」を花に例え、花を咲かせるための成長過程「①土壌づくり・種蒔き ②芽吹き・成長 ③開花」をものがたりとして展開していきます。

①土壌づくりと種蒔きの期

土壌づくり <しっかりと根をはり、成長できる土壌をつくる>



一人一人が安心して学校生活を送り、自分の力を思い切り発揮できる環境をつくるのが育成の基盤（土壌）となります。そのために、支持的風土の醸成と居場所づくりを大切にされた学級経営に年間を通して心がけていきます。



「みんながしっかり話を聞いてくれるから、発表が好き。」
「自分の意見をみんなが大事にしてくれて、うれしいな。」
「みんなで落ち着いて学習ができるって気持ちがいい。」

種蒔き <「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」の花を咲かせよう>

「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」とは、どんな子なのか。
学級開きや授業開きで、出会いを大切にしつつ、1年後の具体的なメッセージ子どもと教師が共有します。







「学年で学習したことができる・わかるようになりたい。」
「難しい問題でも、あきらめないでやりきる力を付けたい。」

②芽吹き・成長の期

芽が出た後、成長に必要なものは、「日光」と「水」です。植物の成長を促す「日光」は「日々の授業改善」、成長のために自ら吸収する「水」は「学習スキル」となります。

教師の授業改善によって、子どもたち一人一人が温かな日光を浴び、様々な機会を通して水（学習スキル）を吸収することで、「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」の花を咲かせる木は成長します。さらに、力強く成長するための適切な肥料（校内研修）と個に応じた支柱（地域や家庭のサポート）によって、その成長はより確かなものになります。

 <p>日光<授業改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある授業づくり 「押さえる・仕掛ける・確かめる」 ○ユニバーサルデザイン 「焦点化」「視覚化」「個への対応」 「学習（見通し）黒板」の活用 ○授業過程の再構築 「追究」「まとめ」時間の十分な確保 ○「主体的・対話的で深い学び」の推進 	 <p>水<学習スキル></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣づくり <ul style="list-style-type: none"> ・土方小学びのルール、約束 ・話す聞く書く名人表の活用 ○学びの基礎基本 <ul style="list-style-type: none"> ・朝ドリル学習（漢字計算） ・土方小日記（書く力） ・ノート展（ノート作り） ○学びの応用・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・生活科、総合的な学習の時間 	 <p>肥料<校内研修の充実> 「わかった」「できた」があふれる授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学びのユニバーサルデザインを重視した授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・導入の工夫 ・教材教具の工夫 ・板書、ICTの活用 ○目的を持って交流を行う <ul style="list-style-type: none"> ・伝え合い ・話し合い ○言語活動の充実 ○学力調査の分析・改善
<p style="text-align: center;">支柱（地域・家庭のサポート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせボランティア（毎月2回） ○放課後学習教室（寺子屋） ○家庭学習の7か条（城東学園） ○学校図書館や大東図書館の活用 		

③開花の期

のびのび成長した木は、たっぷりの日光と必要な水、効果的な肥料と個に応じた支柱によって、自分の成長を実感し、その花を咲かせます。土方小の子どもたち一人一人が「学習を楽しみ、学力を付ける子ども」となるよう全職員と家庭と地域が連携して、力を合わせて取り組みます。

平成30年度へ

来年度は、どんな花を咲かせようか。児童の実態や学力調査の結果分析をもとに全職員で夢を語り合います。

学びの土台づくり

仲間づくり

→

挑戦

→

きたえる

→

つなぐ

チャレンジ!
聴き方名人

- ・その子なりの反応をして聴く。
- ・実態や発達段階に合わせた目標設定

チャレンジ!
こだわり名人

- ・自分の考えを持とう、つくろう。
- ・作った考えを伝えよう

チャレンジ!
認め合い

- ・友だちの考えを認め、生かして高め合う。
- ・話し合いの場を持つ。(形態の工夫)

みんなで
できた わかった!

- ・まとめを書く。キーワード 友だちの名前
- ・学年のまとめ 学んだことの発表 見せ合い授業

学びの約束の徹底

学びの約束

- 学習用具を揃えます(準備・下敷き)
- チャイム着席します
- 授業のあいさつを元氣よく言います

学びづくり週間

毎月学びづくり週間を1週間設定し、重点指導項目に取り組む。達成度を数値化し掲示。

つくろう 『学び』 じまん

_____年

月	日	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度
1	2	3	4	5	6	7	8

見せ合い授業
1つ上の学年の授業を見ます。発表の仕方や聴き方、反応の仕方などを学びます。そして、一年間の学びの足跡を振り返ります。

基礎基本の定着

学びっ子タイム

- ・月曜日の放課後に算数を中心にして、補充学習を行い、基礎的な内容の定着を図る。(地域学習ボランティアによる)

ドリルタイム

- ・水曜日の朝活動で、算数のドリル学習を行い、学習内容の定着を図る。

読書活動

- ・地域ボランティアや教師による読み聞かせを行う。
- ・必読書を選定し、読書の質の向上を図る。

支持的風土のある学校・学級づくり

自己肯定感を高める

- ・言葉づかいを重点にした指導
- ・道徳授業の充実 (道徳参観会)
- ・宝ノートの活用

つながり合う仲間づくり

- ・大切な約束を基盤にした学級作り
- ・たてわり活動で異学年とつながる ペア遠足 たてわりそうじ

掛川市立中小学校

平成29年度 我が校のものがたり

- ・ 中小では、重点目標の「みんなとできる子 ひとりでもできる子」を目指して、高める大切さと楽しさを感じさせる学校づくりを進めています。
- ・ 子どもたちの他と関わりながら主体的に考える力を育てるために、「思いや考えを深め合う授業」を進めます。
- ・ 単元を貫く言語活動の充実、課題からねらいに迫るための適切な教師の関わりにより、身につけさせたい力の定着を図ります。

○課題からねらいに迫るために、適切な教師の関わりをもつ。
○言語活動の充実により、身につけさせたい力の定着を図る。

「みんなとできる子 ひとりでもできる子」 を育成するために

③振り返る

- ・ 自分の学びの自覚（自分のよさ）と認め合い（友達のよさ）
- ・ 「できた」「わかった」を繰り返し、達成感の積み重ね
- ・ まとめと振り返りの方法の工夫



伝えたい
考えたい

①押さえる

- ・ 単元構想、学習過程、教材解釈、児童理解、評価のあり方を研究し、「確かな学力」の育成を図る
- ・ 子どもにとって必要感があり、教師のねらいに沿った学習問題
- ・ ねらいに迫るための言語活動の設定

他と関わりながら主体的に考える子を目指して
思いや考えを深め合う授業



できた
わかった

②仕掛ける

- ・ 主体的な話し合い活動
- ・ 「考えたい」「伝えたい」の気持ちを引き出す補助発問
- ・ 課題からねらいに迫るための教師の適切な関わり
- ・ 自分の考えを持つ時間の設定



学びたい

学習の構えづくり 安心感のある学習環境

子どもの学びを支える力

学習の構えづくり

◆学習の構えづくり

- ・学習用具を揃える

◆基礎学力向上プロジェクト

- ・スタディタイム（週3回）
- ・とことんテスト（長期休業前）の実施
- ・中小日記（週1回）

◆読書生活の充実

- ・朝読書、読書週間、必読図書読破、読書の足跡

◆保護者と連携した家庭学習の充実

- ・お茶の間学び発表会
- ・城東学園家庭学習7か条の重点目標
「学年目標時間（10分×学年+10分）学習」
- ・放課後学習支援

◆学び発表会

- ・達成感・認め合う力の醸成
- ・思考・判断・表現力の育成

落ち着いた安心感のある学習環境づくり

◆中小しぐさ

- 1 プラス1あいさつをします。
- 2 友達を呼ぶときは、「さん」「くん」をつけます。
- 3 正しい言葉遣いを身につけます。
- 4 校内は右側を歩きます。
- 5 「きれいだいすき」のそうじをします。

◆認め合う力を育てる活動

- ・友達の良さや良い行いを昼の放送、帰りの会での紹介、教室掲示する
- ・友だちや自分のよさを振り返る道徳授業

◆スポーツタイムの充実

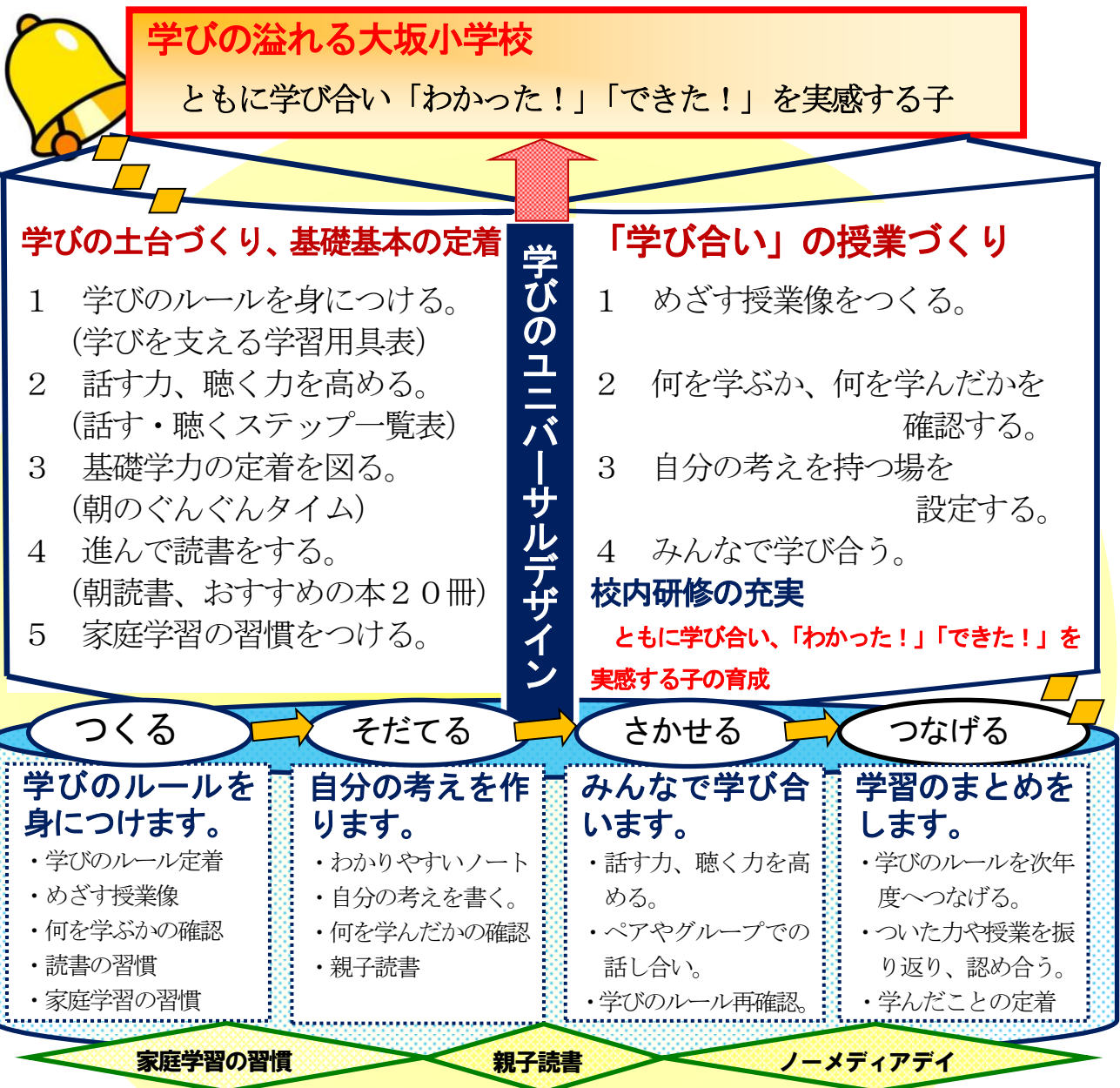
- ・ドッジボール大会（6月）
- ・リレー大会（毎月第4金曜日）
- ・たてわり班遊び
- ・体力アップコンテスト8の字長縄大会

掛川市立大坂学校

平成29年度 我が校のものがたり

学校教育目標「心の鐘をひびかせる子」に向かい、他と関わり合う中での個の確立を目指していきます。平成29年度は「さあ、やってみよう みんなでいっしょに」を重点目標に、集団生活の中で、他と関わり合いながら、自分のもっている力に気づき、それを生かそうと努力する児童の育成に努めていきます。

「学びつくり」の取り組みでは、「ともに学び合い『わかった!』『できた!』を実感する子」の育成を目指します。全職員が、学びのユニバーサルデザインを意識し、①学びの土台づくり、基礎基本の定着 ②「学び合い」の授業づくり の両輪により確かな学力の育成を進めていきます。



「開かれた学校」 家庭・地域の支援と協働で子どもを育てる大浜中学校区学園化の推進

○子育て5か条 ○学校公開 ○交流連携活動 ○学校評議員会・大坂小教育を語る会 ○地域素材の教材化

掛川市立千浜小学校

平成29年度 我が校のものがたり

<学校教育目標> 「よく遊び よく学ぶ子」

<重点目標> 「やります自分から 伝えますみんなに」

1 学びづくり部の取組

「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」を視点とした授業改善

(1) 授業改善

- ①実態の把握（押さえる）
- ・子どもの実態をつかむ
（児童の振り返りなどから）

- ②ゴールの姿を明確にした単元構想や
1時間の授業の組立（仕掛ける）
- ・子どもと共に作る単元構想
 - ・学びのユニバーサルデザインを意識
（ホワイトボード、ICT活用）
 - ・目的をもった交流の場の設定

- ③思考を大切にされた板書や
振り返り（確かめる）
- ・学習問題とまとめがつながる
板書
 - ・振り返りの時間の確保と工夫

(2) 基礎学力定着の支援

- ①伝える（表現する）指導・支援
- ・各学級で、「聴くステップ・話すステップ」
「目指す授業」を掲示（学習コーナー）
 - ・朝活動を利用した音読練習

- ②読書の充実
- ・朝読書（週3日）、水曜の読み聞かせ
 - ・学年に応じた必読書の設定、毎日の家庭
での読書の推進
 - ・司書や司書教諭と連携し、学校図書
館を活用した授業の推進

- ③ドリルタイム・たしかめテスト
- ・毎週金曜日の朝活動でドリル
学習を設定
 - ・年間3回、長期休業前に基礎
学力定着のためテストの実施

学ぶ楽しさが
実感できる授業を
展開し、確かな
学力を育てる

(3) 家庭との連携

- ①家庭学習の方法についての支援
- ・家庭学習の手引きを配布し、家庭での学習習慣をつくる
 - ・週末読書、親子読書の推進
 - ・家庭学習時間の意識化（学年×10分+10分）

2 心づくり部の取組

自己肯定感を高め、共感的な人間関係の育成

(1) 行事や活動を通して感動体験

- ① 児童の意欲を引き出し、本気で取り組む流れづくり
＜児童＞・自分の目標の設定、振り返り
・話し合いによる学級目標の設定

＜教師＞・時間・場の設定、用具・環境の整備

- ・励まし、到達度を確認、賞揚
- ② 行事・活動を通して感動体験
- ・みんなで本気で取り組み、達成感を共有
 - ・自分からやろうとした過程を認める

(2) あたたかな人間関係づくり

- ① 子どもの実態把握、人間関係づくりプログラムの実施
- ・児童教育相談の実施
 - ・人間関係づくりプログラム、構成的エンカウンターの実践
→思いやりある人間関係の育成

② 話し合い活動の充実

- ・よりよい学級にするための話し合い活動
→自治力の向上
- ・ペア活動の充実

③ ペア活動の充実

- ・花壇活動やペア集会を通して、異年齢での交流をもつ

支持的風土のある学校・学級づくりを通し、豊かで健康な心身を育成する

(3) 地域との連携・道徳教育や防災教育の推進

① 地域人材の活用

- ・花壇活動やクラブ活動でのボランティア指導者

② 地域支援コーディネーターとの連携

- ・地域の方の教育活動への参加（生活科や家庭科への支援）

③ 教育活動全体で行う道徳教育

- ・花壇活動 ・かけがわ道徳 ・地域の偉人から学ぶ

④ 防災教育の推進

- ・様々な想定での避難訓練（年4回）
- ・外部講師を招聘しての防災講座

掛川市立横須賀小学校

平成29年度 我が校のものがたり

研究構想図

夢

笑顔

感動

横須賀

<研究テーマ>

いろいろな相手と
進んでコミュニケーションを図ろうとする子の育成
ー外国語活動を通してー

みんなの
キラリを
あなごころに
ー

<研究仮説>

英語に十分に親しませ、目的意識をもって交流活動に取り組ませれば、子どもたちはいろいろな相手と進んで英語でコミュニケーションを図るであろう。

<研究内容>

- ・ 交流に向けて英語に慣れ親しませるための手立て
- ・ 英語で交流したいという気持ちを抱かせるための手立て
- ・ 交流を広げたり深めたりするための手立て

高学年部：「交流を広げたり深めたりしよう」（35時間）

中学年部：「進んで交流しよう」（10時間）

低学年部：「英語に慣れ親しまおう」（8時間）

系統性の確立

授業スタイルの確立

全教育活動を通してのコミュニケーション能力の育成

☆外国語活動を中心にコミュニケーション能力の育成

コミュニケーション能力を「他者との関係をよりよくする能力」とし、「伝える力（話す力・書く力）」「受ける力（聞く力・読む力）」「つながる力（関係形成力）」の総称と捉え、特に本年度は、「つながる力」に重点をおいて指導していく。外国語活動を中心に全教育活動を通して実践的に身につけてさせていく。

1 外国語の授業

○全校同一の授業展開

WARM UP → GOAL（目標をおさえる）→ DRILL（単語や文を知る）→ ACTIVITY（慣れ親しむ）
→ MAIN ACTIVITY（交流を広げたり深めたりする）→ REVIEW（目標に対する振り返り）

○態度目標「GOOD EYES!」「GOOD VOICE!」「GOOD HEART!」

○英語で交流したいという気持ちを持たせるための手立て

○日常生活に役立つ MAIN ACTIVITY の提示

○形成的評価の活用 ○チェックリストの活用

2 朝活動 水曜日の朝活動を「Eタイム」

○5, 6年生は毎週水曜日、英語に親しむ活動を行う。

- ・e ライブラリー「サンセットタウン」で聞く活動
- ・「ペンマンシップ」を使って書く活動
- ・チャンツや歌など声を出す活動

・英語の本の読み聞かせなどで聞く活動 ・カードゲーム（単語数5~6個）で聞く、声を出す活動

○1~4年生は、きらきらタイムを行う時期の水曜日、英語に親しむ活動を行う。

- ・チャンツや歌など声を出す活動
- ・簡単にできる ACTIVITY で英語に慣れ親しむ活動



3 外国人との交流

○John Bostrom さんと（ボランティア）

- ・授業は、5, 6年生に入り、子どもたちと一緒に ACTIVITY を行う
- ・さわやかタイムは、外国語教室や音楽室などにおいて、子どもたちと交流をもつ
絵本の読み聞かせ、ジャンケンキングなどのゲーム

○ALTと

- ・7/3 5, 6年生と交流 体育館で学年ごと
- ・10/4 全校 ハロウィンパーティー

4 水曜日は「イングリッシュ・デー」

○あいさつ ・「Good Morning」で朝のあいさつ

○校内放送・・・放送委員会

- ・朝、昼、下校の時間に英語の歌を流す
- ・簡単な英語を使っての校内放送 あいさつ、自己紹介、日付等

○英語の本や世界の本の紹介

○英語の掲示・・・季節に合わせた 各学年の授業に合わせた

5 基礎基本の定着を図り、主体的・共同的な学びづくり

○少人数指導、ティームティーチングの充実

- ・3~6年の算数で2C3Tの少人数指導を行い、一人ひとりに合ったきめ細やかな指導を心がける。

○ノート指導の徹底 ○目指せ！聴き名人・話し名人



6 学校図書館教育の推進

○司書教諭や学校司書とのTT授業を通して、主体的に学ぶ力、伝える力を伸ばす。

○読書タイムや読み聞かせ

掛川市立大淵小学校

平成29年度我が校のものがたり

行ってらっしゃい!



おはよう!



1 わくわくタイムでミニ鍛錬

○漢字・計算・読解力の向上を目的に実施

- ・月、木、金曜日の朝 5分
- ・漢字5問テスト（月曜日）
- ・読解、計算のドリル学習（木、金曜日）

- ・漢字が書けるようになった。
- ・主語、述語、修飾語がわかった。
- ・計算問題がとけた。



2 伝え合い 力をつける授業

○自分たちで楽しい授業を作ろう。

- ・目と耳と心で聴こう
- ・温かな反応をしよう、広げよう。
- ・全員が発表しよう。

地域で生きる力
体験学習

○研修の重点

- ・つけたい力を明確にした単元構想。
- ・伝え合いたくなる発問。
- ・伝え合いたくなる相談・交流。

○開発的生徒指導

- ・やさしいパワーであたたかな空気をつくる。
- ・気持ちのよい1日の生活をつくる。

- ・〇〇やってみよう。
- ・〇〇をやってみよう。

- ・それいいね。
- ・まだまだもうちょっといける。

- ・みんなでやって よかったね。
- ・つぎは どうしようかな。



3 放課後学習支援 寺子屋タイム

○子どもの学習支援を目的に実施

- ・金曜日の放課後
- ・補充学習、テスト直し、学びの見取り等

- ・～ができなかったけどできたぞ。
- ・～がわかったよ。
- ・宿題のここが難しかったな、でもわかってよかったな。



4 できる喜びを実感できるマスターテスト

- 基本の定着を目的に実施(6月、11月、2月)
- ・学習した範囲の漢字、算数の基礎を出題

- ・合格目指してがんばるぞ。
- ・1回目はわからなかったけど、2回目はわかったよ。



5 心の栄養「読書活動」

- ・朝読書の実施（わくわくタイム終了後）
- ・読み聞かせの実施（毎週火曜日）
- ・親子読書の日（毎月第三金土日）・・・本を持ち帰り、親子で本に親しむ
- ・図書ボランティアの活動
- ・各学年「大測小の30冊」（その学年で是非読ませたい本）の読破

保護者の協力

- ・読書を通じて親子の会話を広げる
- ・教育相談

（いつでもどこでも）



- ・読書は自分の想像の世界が創れて楽しいよ。
- ・読み聞かせが楽しみ。だって、お話の世界に入れるから。

今日も楽しい1日
だった



どんどん伸びるぞ

- ・安心して勉強することができるよ。
- ・困ったとき支えてくれる仲間がいるよ。
- ・みんなでのばしていきたい。
- ・みんなといっしょに考えてみたい。

みがこう自分を 高めあおうみんなで

中 学 校

掛川市立栄川中学校

平成29年度 我が校のものがたり

<研修テーマ>

進んでかかわり 表現する生徒

<栄中生の実態>

- 基本的に素直で真面目な学習・生活態度である。
- 友人との絆が強く、協力して行事に取り組むことができる。
- ▼人間関係が固定化され、自己の向上意識が希薄である。
- ▼授業の学習問題に対して、粘り強く考える力が欠如している。
- ▼馴れ合い集団になってしまうため、TPOを弁えた言葉遣いができていない。

<29年度めざす姿>

- ① 考えを比べながら聴き、学び合う姿
(今年度の重点)
- ② 仲間と協力して、課題を解決する姿
- ③ 自分の思いや考えをわかりやすく表現する姿

学校教育目標



<仮説>

- ☆ 深く追究させたい課題を設定し、小集団でじっくり考えさせることが、生徒一人ひとりの問題解決能力やコミュニケーション能力の向上につながるだろう。
- ☆ 小集団活動での課題や目的、活動方法、意味を理解させることが、活発な小集団活動につながるだろう。
- ☆ 「学びのUD」の視点に立った支援をすることで、すべての生徒を学びのステージに立たせることができるだろう。

<手立て>

「学び合う」姿がどのような姿なのか、実態を踏まえて具現化するための手立てを次の三つの視点で考えていく。

- ・課題設定の工夫（子どもが自ら学びを深めたいと思えるような課題設定）
- ・交流の目的の明確化
- ・交流方法の工夫

＜具体的な取組＞

ア 意欲的に授業に取り組む生徒の育成

・ **全教科・領域で『学び合い』の実践と深化**

新学習指導要領が謳う、「主体的・対話的で深い学び」の一つの姿。

生徒同士の学び合いが実現し、学級全員が学びに参加する姿。

「分からない」「教えて」が言い合える。

互いに学び合う＝聴き合い、訊き合い、教え合う。

上位層の生徒も下位層の生徒も、1人残らず授業に参加する。

イ 繰り返し学習による基礎学力向上

・年5回の基礎学力テスト（国社数理英）全員合格を目指した事前・事後指導。

ウ TT指導、少人数指導などによる丁寧な支援

・可能な学年でTT指導、少人数指導を取り入れ、一人ひとりへの丁寧な対応を行う。

エ 見える学力向上への手立て

・全国学力学習状況調査の問題・結果分析と定期テスト等への活用。

オ 家庭学習の充実

・家庭学習の丁寧な見届け、『家庭学習の手引き』の活用。

日時	月	日	学級	担任	授業者
項目	日	学級	担任	授業者	実施状況
授業	グループワーク	グループでの学習が設定されている			
授業	授業の工夫	授業参観の過程で授業の工夫がある			
授業	学習課題	学習課題が設定され、共有されている			
授業	授業参観	学習参観が事前に行われ、参観が促されている			
授業	学び合い	生徒が聴きあい、学びあっている			
授業	全席参加	生徒全員が授業に参加している			
授業	まとめ	授業のまとめが明確で、参観が促されている			
授業	参観状況	参観状況は、①〇〇％で参観、②参観できなかった理由は、/とする			
コメント					

＜栄川学園で取り組む教育活動の土台＞

☆『学び合い』を通じた授業力の向上

『学び合い』の推進（主体的・対話的で深い学びの一つの姿）

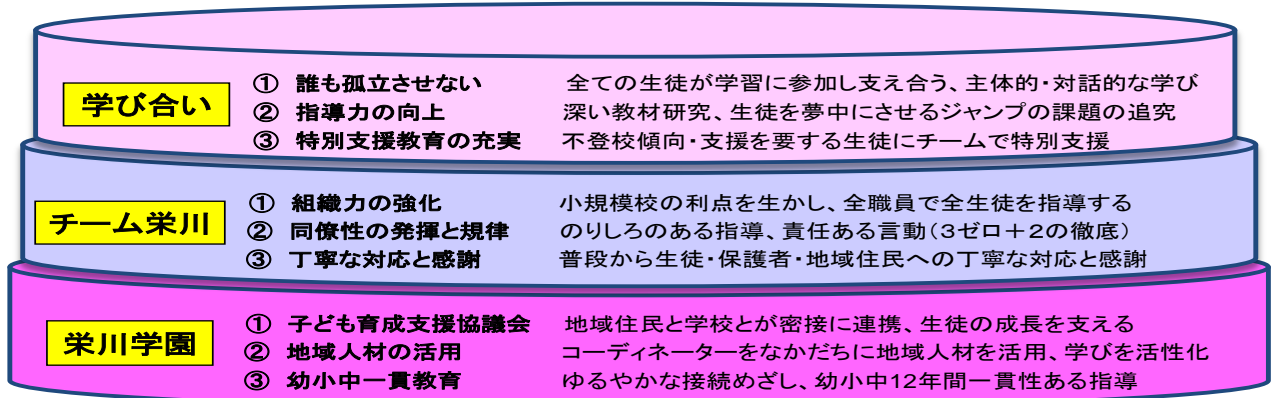
ア 深い教材研究と生徒を夢中にさせる課題設定。

イ 聴き合う、支え合う関係づくり。

ウ 校内研修の充実（一人一公開授業） ※授業参観シートの活用。

エ 一貫研での異校種の授業研修を通じた授業力向上。

オ 各種研修機関主催の選択研修、県内外の研究会参加で教科授業力向上。



＜「学び合い やり抜く 栄中生」の実現へ＞

本校は「学び合い型授業」を通して、生徒の問題解決能力を育む授業を実践していきたいと考える。そして、困難な状況に直面しても、主体的にかかわり自らその困難を乗り越えていこうとする「進んでかかわり表現する生徒」の育成を目指す。

掛川市立東中学校

平成29年度 我が校のものがたり

起

東中生の姿（現状）

- 行事や部活動、生徒会活動に精一杯取り組んでいる。
- 明るいあいさつ、正しい服装・美しい身だしなみが身につけており、まじめな態度で授業に取り組んでいる。
- 学力のさらなる定着と家庭学習の習慣化を進めたい。
- 交通ルールとマナーの向上に、より一層努力をさせたい。

承

本校生徒の目指す姿（さらなる高みを目指して）

- 校歌が伝える東中の精神「平和と自主こそ揺るがぬ誓いぞ」

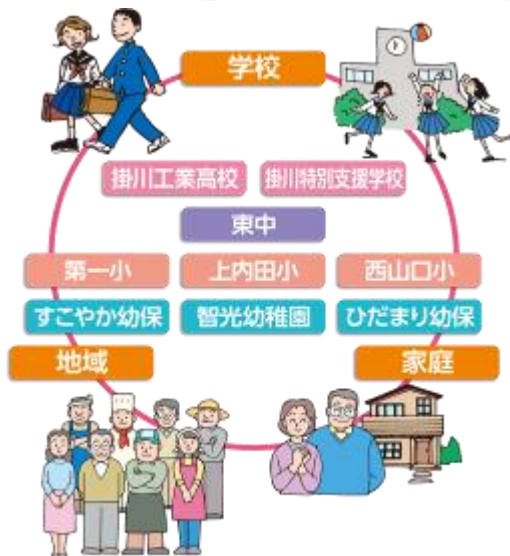
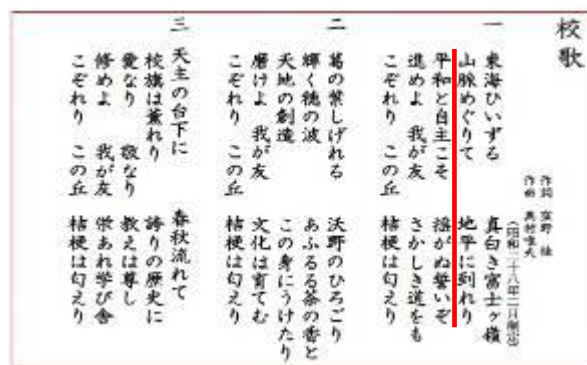
平和を脅かすいじめ、差別、偏見、暴力などをなくし、自分の手で平和な学級、学校、社会を絶対につくると、私たちは校歌を歌いながら宣言します。

- 地域と共にある学校

中学校学園化構想「掛東学園」を基盤に、地域・家庭・教職員が一体となって生徒一人ひとりを育てます。

- 学び合う力の育成

グローバル社会に行く抜くために、他と関わりながらよりよく問題を解決していく能力の育成を目指します。



キーワードは「学び合い」

全ての教育活動で、「学び合い」を基本に取り組みます。また、取組を継続的に検証し、教育活動の改善につなげていきます。

東中アクションプラン

- 仲間と高め合う「学び合い」の授業
- 地域から学ぶ総合的な学習の時間「掛川学」
- 標準学力検査など客観的なデータ分析に基づく第三者評価の導入

仲間と高め合う 学び合いの授業

「話しがけやすい」「顔を向けて話せる」「気持ちが行わる」「みんなで協力して授業ができる」等、仲間と力を合わせてつくり上げる授業をめざしています。

お互いの話を聞き、協力して授業ができる学び合いの授業

わからないところは一緒にやろう。力を合わせてればきっと出来る。

笑顔で協力すれば、作業がスムーズだね。Face-to-Faceだよ。

中島弘司校長 掛川市の皆様

学習活動別学習効果

聞いたとき	10%
見たとき	15%
聞いて見たとき	20%
話し合ったとき	40%
体験したとき	90%

先生が的確なアドバイスをくれます。

授業改善について専門家（日本大学准教授）の指導を受けて進めます。

また、授業改善が確実に成果に結びついているか、毎年実施する学力調査、生徒アンケート等の経年比較を基に、評価と改善策の検討をします。



総合的な学習の時間「掛川学」

東中の総合的な学習の時間では、「掛川市」をテーマとして、地域や学校を知り、その上で地域や学校に関わる諸問題について考え、解決していく地域に根ざした学習「掛川学」を推進しています。

1年生「掛川を知る」

フィールドワークでは地球のいろいろな施設を訪問しました。

市民になって、はいポーズ。

掛川の観光や歴史について講義を聞きました。掛川の良さや魅力を熱く語っていただきました。

2年生「掛川で働く」

さまざまな事業所で一生懸命働きました。

「働くことの意義」について、実際の仕事の内容を含めてご講話をいただきました。

3年生「掛川について考える」

「区長さんと語る会」で地域の活性化について話し合います。

掛川の将来について講話を聞きました。

仲間との「学び合い」の中で、生徒全員が「わかった」「できた」を実感する

現在の東中は、生徒らが学び合い、柔らかな雰囲気の中で力を伸ばしている。平成28年度も全国学力量習状況調査の全国平均も国語、数学ともに上回った。東中生の学びに向かう姿はすばらしく、問いに対して自分なりの考えをもち、仲間と進んで関わり合い、時には論理的に、時には批判的に、時には創造的に、仲間と悩みながら話し、その考えをより豊かに磨き上げている。生徒は、互いに学びを深める大切な仲間であると捉えている。東中の学び合いは今後も更に深化し続ける。

掛川市立西中学校

平成29年度 我が校のものがたり

21世紀を生きていくために必要な力は、知識の習得だけでなく、論理的に考え他者に分かりやすく表現するなど、実社会で活用できる能力（汎用的能力）の育成が求められている。そのために、少子高齢化、知識基盤社会、グローバル化の進展等、多様化する社会で生きのびることができる資質と能力を育てていくことが必要である。

重点目標

夢

自立

共生



本校が目指す生徒像～育てたい力～

西中学校区に生まれ育った西中生の良さをさらに伸ばすとともに、『生きる力』の土台となる3つの力を、教育活動全体を通じて育てていく。

【夢に向かう生徒】

- ・自らの目標に向かって、主体的、積極的に取り組む生徒
- ・自分らしさを発揮し、仲間と協力をして、より高い価値を目指すことができる生徒

【自立した生徒】

- ・自ら学び、自ら考え、正しく判断し、行動できる生徒
- ・自らの言動に責任をもち、我慢強く最後までやり遂げる生徒

【共生できる生徒】

- ・他を思いやり、美しいものに感動し、自他の生命を大切にする生徒
- ・多様な生き方を認め、他者のよさに気づくことができる生徒



校訓 「知性」「健康」「協力」
 学校教育目標 「心豊かに 磨き合う仲」

確かな学力の育成

達成感の味わえる授業づくり

教育活動

- 夢を実現する確かな学力の定着
 - ・基礎・基本の徹底
 - ・思考力・判断力・表現力の育成
 - ・学習規律の徹底（ルール、マナー、姿勢等）
 - ・朝読書の充実、図書環境の整備
 - ・家庭学習の充実
- 一人一人を大切に授業
 - ・学びのエンパワースタイル（焦点化、可視化、個への対応、授業過程の再構築等）
 - ・特別支援教育
- 「わかった」「できた」を実感できる授業
 - ・学習課題の明確化（課題設定の工夫）
 - ・構造的な板書の工夫、具体物の活用
 - ・小集団学習（主体的・対話的で深い学び）
- 道徳の時間の充実

評価指標

- ◇授業に意欲的に取り組んだと答える生徒 93%以上
- ◇授業が分かりやすいと答える生徒 93%以上
- ◇家庭学習に継続的に取り組めた生徒 80%以上

重点目標

夢・自立・共生

社会性・豊かな感性の育成

元気が出る学級、学校づくり

教育活動

- 夢を育む教育（キャリア教育）の推進
 - ・人間尊重を基盤とし、自分に自信を持ち、仲間とともに夢に向かってより良く生きようとする姿勢を育む
- 基本的な生活ルール、マナーの向上
 - ・あいさつ、言葉遣い、規範意識の向上
- 一人一人に居場所があり、仲間を大切に安全・安心な生活環境づくり
 - ・命を守る教育（いじめ追放、不登校ゼロ、交通ルールマナーの徹底、防災教育等）
 - ・コミュニケーション能力の向上
- 生徒の主体性を重視した活気ある諸活動
 - ・感動ある行事活動、生徒会活動、部活動
- 道徳教育の充実
 - ・横の連携・縦の接続を意識した道徳教育

評価指標

- ◇学校、学級が楽しいと答える生徒 93%以上
- ◇行事、生徒会活動、部活動等に意欲的に取り組んだ生徒 95%以上
- ◇ルール、マナーを守り、気持ちの良いあいさつができる 生徒 95%以上

学びの深まり～授業改善からのアプローチ～

研修テーマ『学びのユニバーサルデザイン ～一人一人が学びの主役～のもと、「焦点化」「視覚化」「個への対応」を土台に、確かな学力の育成を目指す。学ぶ喜びや仲間と共に学習することの楽しさを体感できる「生徒が活躍する授業づくり」「達成感の味わえる授業づくり」を進めるための授業改善を図っていく。

☆「何を学ぶか」だけでなく、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを大切にした授業

☆探究的な学習や共同的な学習を取り入れ、仲間との学び合いが充実した授業

☆暗記再生型の授業から相互交流の多い思考発信型の授業



【本校の具体的な取組】

- ① 一人一人を大切にした授業と学力の定着
 - ・学習問題の明確化と具体物、板書の構造化、個別支援と小集団活動の充実
 - ・「わくわくする導入」「追究」場面での学び合い、聴き訊き合うことでの考えの深まり
 - ・掛西中授業実践10項目の徹底と「全体指示」と「個別指導」の周知徹底
- ② 達成感の味わえる授業づくり
 - ・まとめの場面での学びの押さえと仲間の意見や考え方からの新たな気づきと発見

掛西学園からのアプローチ〈5園4校の連携〉

- ① 生徒の学習ルール
 - ・友だちの方を向いて、最後まで聞くことができるようにさせる。聞くときは聞く、書くときは書く。
- ② 生活のルール
 - ・あいさつが「だいじ」、そうじは「だいじ」、いじめは「ゆるさない」
- ③ 家庭の共通実践項目
 - ・基本的な生活習慣の確立→「早寝早起き」「朝ご飯」の実践
- ④ いじめ追放宣言
 - ・生徒会や西中PTA（保護者）の宣言
 - ・生徒会が西中学校3小学校で共同宣言
- ⑤ あいさつでつながろう運動
 - ・生徒会が西中学校3小学校であいさつ運動を実施
 - ・全保護者が登校時にあいさつ運動を実施

掛西学園 教師の共通実践項目

- 1 学習の流れがわかりやすい板書（掲示）をつくる
学習の振り返りがわかる板書（掲示）をつくる
- 2 生徒の発言を大切に聞く
「目を見る」「思いを受け止める」「最後まで聞く」
- 3 主活動、授業の中でどんどんほめる

地域に根ざした学校づくりからのアプローチ

学校・地域・保護者が一体となって子どもを育成

- ・地域の人材を生かし、学校へ取り込んだ活動（読み聞かせ、図書ボランティア、環境整備）
- ・生徒が積極的に参加（防災訓練、リサイクル活動、公民館の清掃等）
- ・「あいさつでつながろう運動」「いじめ追放宣言」を地域へ広げる。
- ・吹奏楽部、美術部作品、書道作品等の出展
- ・防災教育「手当てケア」を地域防災訓練で実施
- ・近隣高校との公開授業による指導方法向上の連携



掛川市立桜が丘中学校



平成29年度 我が校のものがたり

確かな学力の育成

○授業改善の視点（静岡県教育委員会）

- 1 学習指導要領の目標や内容を明確に押さえて授業を行う。・・・「押さえる」
- 2 付けたい力に沿って効果的な手立てを仕掛ける。・・・「仕掛ける」
- 3 子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する。・・・「確かめる」

○かけがわ学力向上ものがたり

- ・「新たな学びのプロセス」への転換
- ・言語活動の充実
- ・地域の人に学ぶ活動の推進
- ・読解力を伸ばす問題の作成
- ・読書活動の充実
- ・学力向上指標の提示

○中学校区学園化構想（桜が丘学園）

- ・家庭・地域等との連携を強化し、開かれた学校の一層の推進を図る。
- ・「すこやか子育て10ヶ条」の活用
- ・「桜が丘学園学習のてびき」の活用

学びの実感を積み重ねる「ものがたり」

○達成感の味わえる授業づくり

- ・学習課題の明確化
- ・課題設定の工夫
- ・具体物の活用
- ・板書の工夫
- ・まとめ時間の設定
- ・授業評価による授業改善

○確かな学力の定着

- ・基礎・基本の徹底
- ・思考力・判断力・表現力の育成
- ・家庭学習の充実
- ・朝読書の充実、図書環境の整備
- ・補充学習により学習の継続性を図る

○学習指導

- ・授業5原則の意識化
- ・基礎学習の実施
漢字・数学・英語の1Pノート
- ・チャレンジ学習（数学、英語の基礎学力テスト）の実施

生徒が活躍する授業づくり

〈 桜が丘中学校研修テーマ 〉 3年計画の2年目

生徒が主体的に取り組む授業づくり

～考えを深める手立ての工夫～

（考えを深めるために）

- ◎「考えを深める」＝「深めている生徒の姿」共通理解
- ◎適切な対話場面の設定
（課題や問いに沿って考えが広がったり深まったりする言葉のやりとり、気づきのある言葉のやりとり）
- ◎生徒が積極的に考えたいくなる「問い」の設定
- ◎「聴き合う」「伝え合う」集団づくり

確かな学力の育成のために

(1) 学習指導要領の目標や内容を明確に押さえる

学習指導要領を読み込み、付けたい力を明確にして授業を構想する。学習指導要領に示されている目標や内容を確認し、付けたい力（単元(題材等)又は本時の目標)が明確な授業になれば、学習課題や発問、板書なども充実し、授業のまとめや確認の時間も有効に活用されると考える。生徒には授業の目標はもちろん、単元の進め方や1時間の展開の見通しをもたせることで、安心して授業に取り組める体制をつくる。

(2) 効果的な手立てを仕掛ける

付けたい力をもとに言語活動の「目的」「内容」「形態」「方法(時間や役割)」等を検討し、より効果的な活動を設定する。思考力・判断力・表現力を育むために、読み手や聞き手を意識して説明する場の設定を意図的に行い、根拠をもって伝えることができる力を育ていきたい。言語活動を有効に活用し、根拠に基づいて自分の考えを書く活動を位置づける。

(3) 学習内容の理解を確かめる場の設定

生徒が何を学び、何を身に付けることができたかを自分自身で自覚できるようにする。授業の終末に身に付けた力を発揮できるかを確かめる時間や場を設定する。1時間の授業を振り返ったり、単元の内容を振り返ったりする。また、単元の終末には練習問題やテストで確かめる。

(4) 生徒に学習の仕方を指導する

「効果的な勉強方法はどんな方法なのか。」に答えられるよう、学年部や教科群で検討し、生徒に指導する機会をつくる。校内研修で参考書の使い方や勉強時間の目安、いつ、何を学ぶべきかをより具体的に詳しく研修する機会を設けて「勉強しなさい。」から「こうやって勉強したほうがいいよ。」という具体的なアドバイスを与えられるようにする。授業中やテスト前に教科担任からはもちろん全職員で、生徒に学力向上の手立ての声掛けができる体制を整える。

(5) チャレンジ学習

年4回、基礎学力テストを行う。教科は数学、英語の2教科で朝の会の終了後(テスト10分間、採点5分間)実施する。テストは3回セットで実施し、1回目と2回目はプレテストとし3回目をテストとする。3回目のテストで全員が合格となるように、1回目と2回目のプレテストで指導を徹底する。テストの範囲は具体的に示し、あらかじめ類似した問題を基礎学習で学習できるように準備する。

(6) 家庭学習の充実

効果的な課題を設定して家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着とともに、自宅で勉強する習慣を付けるように指導する。具体的には、毎日の家庭学習として「漢字・数学・英語の1Pノート」に取り組む。これらを教科担任がチェックし、学習内容と提出状況を確認する。効果的な家庭学習を継続させることで確かな学力の定着につなげていきたい。

(7) 校内研修の充実

生徒が主体的に授業に取り組む姿を目指し、本年度は考えを深める手立ての工夫を切り口とした授業研究を行う。外部講師を招聘し、考えを深める手立てについて理解を深めたり、学年部体制での公開研究授業実践をしたりして、研修テーマの達成に向けて取り組む。

掛川市立原野谷中学校

平成29年度 我が校のものがたり

原野谷の里は、四季折々の美しい自然と世代を越えた人々の温かな心に彩られています。原野谷っ子は、純朴で、何事にも熱心に取り組めます。地域でも校内でも、元気なあいさつ、さわやかなあいさつが交わされます。学校の規模は小さいですが、仲間同士、気心が通じているよさがあります。一方、人間関係で悩みをもっている生徒も少なくありません。言われたことはできるのですが、自分で考えて行動すること、自分の考えを相手に伝えることを苦手としています。そんな原野谷っ子が、「心ゆたかに」「かしこく・りりしく・たくましく」成長することを我が校は目指しています。

校 訓 「心ゆたかに」

学校教育目標 「夢・汗・感動」

重点目標 「かしこく・りりしく・たくましく」

校訓の「心ゆたかに」は、自己中心的になりがちな心を戒め、人の痛みを感じる思いやりの心、礼節を重んじる心をもつこと。こころざしは高く、社会のために役立とうと、自己を磨き、汗を流すことの尊さを諭している言葉です。

この「心ゆたかに」を生徒の姿としてとらえると「夢を抱き、汗を重んじ、感動求め、よりよく生きる生徒」となります。我が校に伝わる古文書には「夢は自己を磨き高める目標である。実現のために努力を惜みず、感動へとつなげ、夢・汗・感動、この一連の体験の中で自己を見つめる。こうした体験を重ねながら、生き方を高め、将来の夢やこころざしを育む」と書かれており、昔から原野谷の里の子供達（原野谷っ子）が目指した姿なのです。



「かしこく・りりしく・たくましく」は、原野谷っ子の目指す姿を飾る言葉です。

- ◇「かしこい原野谷っ子」は、人のために役に立とうとするこころざしのもと、自ら考え判断して行動する力をもっています。
- ◇「りりしい原野谷っ子」は、「いじめはしない させない 許さない」正しい心をもっています。当たり前のことが自然にできる、人としての生活習慣を身につけています。
- ◇「たくましい原野谷っ子」は、心と体の健康づくりと体力づくりを図り、課題に粘り強く取り組む思考力・判断力・表現力を身につけ、たくましく生き抜く力をもっています。

「かしこく・りりしく・たくましく」は互いに連動している飾り言葉です。「かしこい原野谷っ子」を育てるためには、「りりしい原野谷っ子」、「たくましい原野谷っ子」も同時に目指さなければならないのです。「確かな学力」を身に付けるためには、その土台となる「凜とした心」と「健康な体」が必要です。我が校では、生徒、保護者、教職員が互いに連携し、原野谷学園の皆様力を借りながら、原野谷っ子の心と体を育て、原野谷っ子の学力向上を目指します。

全国学力・学習状況調査の結果から、原野谷っ子は、言語活動や読解力の分野を苦手としていることも明らかになりました。家庭学習の状況も授業の予習を行っている割合が少なく、休日の学習時間も少ないことも明らかとなっています。

これらのことから、学力向上に向けた取組の重点をそれぞれ『学習の取組4ヶ条』『授業改善3ヶ条』『家庭環境力3ヶ条』にまとめました。それを生徒・保護者・教職員に提示し、共通理解をしながら、学びのユニバーサルデザインを意識した授業に取り組み、原野谷っ子の学力向上を目指していきます。また、キャリア教育、道徳教育、環境教育、人権教育、防災教育にも継続して力を入れていきます。

1 取組の重点

(1) 『学習の取組4ヶ条』…当たり前前のことが自然にできる心や態度を育てる

- ① 1分前には着席し、開始時刻に授業を始める
- ② 忘れ物をしない(授業の用具・提出物)
- ③ 人の話を聞き、積極的に活動(反応)する
- ④ 授業前後に気持ちのよいあいさつをする(語先後礼)

(2) 『授業改善3ヶ条』…教職員が取り組む授業改善の柱を明確にする

- ① 生徒の主体的な問い(学習問題)を生み出す工夫
- ② 思考や表現のための手立ての工夫
- ③ 自分の言葉でまとめたことを活用・評価する場面の設定

(3) 『家庭環境力3ヶ条』…規則正しい生活習慣や家庭学習の充実を目指す

- ① 早寝・早起き・朝ご飯
- ② 毎日2時間以上の家庭学習をやり遂げる 家庭環境をつくる
- ③ 家庭の一員として仕事をもつ

2 その他の主な取組

- (1) 数学塾…数学の基礎学力の定着に取り組む
- (2) 朝読書…毎朝10分集中して読書を行い、「読む」ことの習慣化に取り組む
- (3) 1分間スピーチ…「自分の考えをまとめる力」「話す力」「聞く力」を育てる
- (4) 人間関係づくり…小規模校の特性を生かした縦割り集団の活動・交流

原野谷中学校区の小中学校は、「小中一貫教育」の市指定研究を受けています。原野谷学園は、これまでも保幼小中と地域が一体となり、「夢を抱き くりりしく歩む 原野谷っ子」を目指してきました。その素地を生かして、各教科で発達段階を考慮した9年間のカリキュラムづくりに着手します。特に、英語科教員と小学校5、6年の担任が連携を図って、英語とのつながりを意識した外国語活動に取り組みます。

我が校には、「清麗の庭」と「清麗の鐘」があります。「清麗の庭」は平成元年に、「清麗の鐘」は平成6年に造られました。「清麗」とは、「学校生活が清く美しい状態であること、そして一人一人が希望をもつこと」を願ってつけられた名前です。朝と夕には美しい鐘の音が校庭に響きわたります。この鐘の音により原野谷っ子は心を落ちつかせ、今の自分を見つめ、未来の自分を思い描くのです。

この鐘は、原野谷っ子の夢や希望のシンボルとなっています。正面の門は未来への入り口を、階段状に積み上げられたレンガの塔は、人生の階段をイメージしています。塔の上に突き出た部分はこれから切り拓いていく道での様々な障害を表しています。未来へ羽ばたく原野谷っ子に、人生の中で出会うであろう幾多もの困難を乗り越える強い力を身につけるよう願いが込められているのです。この「清麗の鐘」が永久に清く美しい鐘の音を響かせて、原野谷っ子の心に潤いや夢を与えていくことでしょう。



このように、学力の向上を目指した取組、心を育てる取組を通して、原野谷っ子に「確かな学力」と「凜とした心」を身につけることができると考えています。授業の中で、「学びのユニバーサルデザイン」を意識し、原野谷っ子の学びを充実させ、わかりやすい授業を行います。また、「かけがわ道徳」の授業にも全教員で取り組みます。

「凜とした心」の土台の上に「確かな学力」を築き上げること、原野谷っ子に夢やこころざしを育み、それを実現させることのできる「力」を身につけることを目指すことにより、「我が校のものがたり」が「原野谷っ子一人一人のものがたり」になっていくのです。

掛川市立北中学校

平成29年度 我が校のものがたり

- 1 ^{きほく}「冀北ものがたり」が目指すもの



School Identity 「冀北精神」

大先輩達のように、目標に向かって自分を高めよう
北中生として誇りをもって生活しよう

生徒の実態

- 純粋な人間性を持ち合わせている
- 明るい対応や笑顔の受け答えができる
- 学習に対する意識が全体的に高い
- ◇一步踏み出すエネルギーに欠ける
- ◇レールの上は走れるが新たな道を築けない
- ◇壁に当たった時の自己回避能力に欠ける

冀北の目指す生徒の姿

- 挑戦をいとわない生徒
- 新たなレールを自ら切り拓いていける生徒
- 失敗を恐れない生徒
- 現状を打破していこうとする生徒
- 自ら負担をかけている生徒
- 自身でふさわしい行いをしていく生徒

学校教育目標

確かな学力 豊かな心 高いところざし

平成25年度から継続している学校教育目標の「確かな学力 豊かな心」は徐々に成果を上げ、学校全体に浸透していることが、生徒の姿から見る事ができる。平成29年度は、生徒の実態から「高いところざし」を特に意識して、全教育活動を推進していく。そして、それらの中で生徒自身が、自分・人・もの・ことを見つめ、現状に満足することなく、より高い価値を求めていく向上心や誇りを持ち、学校生活を送れるようにしたい。これらは、冀北の目指す生徒の姿であり、ひいては「子どもたちの未来のために」よりよく生きようとするエネルギーとなるものとなっていく。

冀北の改革

- 2 「冀北ものがたり」を具現化していくために

研修テーマ

「学び合い 高め合う授業」

- ① 真に意味ある小集団学習 ② 「なぜその教科を学ぶのか」 答え得る教師

1 めざす生徒の姿に迫るための本校の授業像

- ① 現状の穏やかな人間関係や基礎・基本の知識を基に、対話を通して深め合う授業
- ② 三年間の学びを通して、生徒自身が目標や課題を見つけ、主体的に学びに向かう授業
- ③ 自らの考えを、様々な方法で表現できる授業

2 めざす生徒の姿に迫るための本校の教師像

- ① 一方的な知識伝達だけでなく、生徒に知識を活用する場面を与えられる教師
- ② 「なぜ学校教育の中でその教科を学ぶのか」ということを問い続け、生徒に対して答え得る教師
- ③ 「その教科を通してどのような人を育てたいのか」と問い続け、発信できる教師

実践事項

- ① 対話を主体とした授業を通して、正解だけを追い求めるのではなく、考えを導き出すプロセスを大切にする。→ **高いところざし**
- ② 「真に意味ある学び合い」を通して、知識や技能を覚えさせるだけでなく、活用したり表現したりすることで、各教科のつきたい力に迫る。→ **確かな学力**
- ③ 生徒が「なぜその教科を学ぶのか」ということに気付き、目標を持って学習に取り組めるように教師自身がその教科を学ぶ意義を考え、授業の中で生徒に伝え、働きかける。

→高いところざし



小集団活動について(校内研)

「手立て」や「課題」をいつでも見える場所に掲示

学活「北中が目指す良い授業について、考える」



「学校でなぜその教科を学ぶのか？」
まず、教師個人で、
そして、今後は教科部で考えていく



冀北学園
イメージキャラクター
「きほくま」

目指す授業について、
全校生徒でイメージを持つ

目指す方向性について、
教員間で共通理解を図る

掛川市立城東中学校

平成29年度 我が校のものがたり

報徳の心をうけつぎ城東が大好きな子どもの育成

序論・・・共に創り上げる授業

城東中生は真面目で誠実です。落ち着いた態度で日々の授業を受けています。しかし、主体的な取組が弱く、自分から進んで行動することが得意ではありません。次期学習指導要領では「学びを人生や社会に生かそうとする、学びに向かう力」が求められています。生徒の主体性を育てる授業が、今、必要とされています。これまでの授業では、生徒が受け身になる一方的な授業形態が多く、教師にとっても授業改善が必須の課題となっています。本年度は、生徒と教師が共に授業を創り、生徒の「学びに向かう力」をつけるため、生徒指導、学習指導及び校内研修を「共に創り上げる」をキーワードに、学校体制として取り組みます。



目指す生徒像

- ・真面目さを生かした対応、柔軟に判断できる子
- ・コミュニケーション力、面白みのある発想豊かな子
- ・気づく感じる感性、想像力を持ち合わせた子
- ・優しさ、温かさ、お互いに助け合う力を持った子

本論①・・・授業改善からのアプローチ

校内研修で目指す生徒の姿：「自らすすんで考え、意見を言える生徒」

「友達の意見を聞き、自分の考えを高められる生徒（聞き上手、話し上手）」

研修テーマ：「生徒が主体的に追究・表現する授業」

仮説：「かかわりながら学び合う活動を増やしていけば、生徒の主体性をより高めることができるだろう。」

ア. 小集団活動の充実

「かかわりながら学び合う活動」を増やしていくために、小集団活動を充実させます。ジグソー法やペア学習、学習班での意見交換など形態は様々ですが、大切なことは、その活動が授業でつけたい力に迫る学習活動になっているかということです。生徒が活動の目的を理解し、必要感を持って取り組むことができるように留意します。また、生徒や教師のICT活用を推進し、学びを深める手立てとします。生徒が自立して考えることができるよう、考えるための資料や視点を提示します。

イ. 学習問題の工夫

生徒は誰もが「知りたい」「考えたい」「やってみたい」という知的好奇心をもっています。生徒の「～したい」をひき出し、生徒一人一人が目的意識や必要感をもって取り組むことができる、魅力的な学習問題を設定します。ただし、分かりやすく具体的で、身近な話題は、生徒は取り組みやすいですが、学びの深まりにつながらないこともあります。適切な難易度で、友達とかかわりながら、新しい知識や見方、考え方に気づき、自分の考えを深めていくことができる問題を設定します。

ウ. **家庭学習の奨励**

「自学ノート」を導入し、家庭学習への生徒の主体的な取組を奨励します。各教科の課題にプラスアルファし、自主学習を行うことで、学習内容のいっそうの定着を目指します。参考になるノートや取組を掲示やお便りでお知らせします。

本論②・・・学習環境づくりからのアプローチ

ア. **学習の5原則**

「学習の5原則」として、「タイム着席」「あいさつ・返事」「聞く姿勢」「取組」「課題や学習用具準備」を設定しています。学芸委員会が中心になって呼びかけをし、生徒自らが学習環境を整える努力をしていきます。

イ. **思いっきり学習会**

基礎学力の定着を図るため、校内テストの前に思いっきり学習会を実施します。テスト勉強への意欲化を図ると共に、勉強の方法がわからない生徒が勉強に前向きに取り組めるようにします。

結論・・・生徒の主体性が見える時

「知りたいことを知ることができたな。」「もっと知りたいな。」「別のものはどうなのかな。」など、授業の振り返りの際、生徒が、達成感や次への意欲につながる思いをもつことを期待します。生徒のもつ可能性とよさをひき出し、高める授業づくりを行っていきます。

掛川市立城東中学校
グランドデザイン

学校教育目標
誇りを持ち、ひたむきに学ぶ生徒

重点目標
進んで挑戦 共に高め合う仲間

人とのかかわり・・・人間関係づくりを基盤

見える力

一歩踏み出す勇氣

アドリブ

プラスα力

5
ス
テ
ー
ジ

学習指導部

<生徒と共に

創り上げる授業>

- ◆主体的に授業に取り組む姿勢を育てる
- ◆共に創り上げる学習集団学習
- ◆個に応じた学習指導
- ◆朝読書の充実

- ・授業が楽しい【4.6】
- ・授業がわかる【4.3】

生活指導部

<授業改善のための

基本的な生活マナーづくり>

- ◆あいさつのできる生徒の育成
- ◆校内、地域でのあいさつの向上
- ◆基本的な生活マナーづくり
- ◆社会、授業のルールを遵守できる生徒
- ◆安全で機能的な学習環境の創造

- ・あいさつができる【4.3】
- ・課題を忘れない【4.5】

特別活動指導部

<生徒一人一人が活躍できる
学校づくり>

- ～生徒会活動・班活動の活性化～
- ◆専門委員会活動の充実
- ◆安心できる学級づくり
- ◆自己表現できる環境づくり
- ◆温かい人間関係づくり
- ◆ボランティア意識の向上

- ・学校が楽しい【4.5】
- ・気軽に相談できる【3.8】

研修テーマ：生徒が主体的に追究・表現する授業

15年を見通した一貫性のある教育

城東学園化構想 願う子ども像「報徳の心をうけつぎ、城東が大好きな子どもの育成」
幼・保・小・中との連携 家庭・地域との連携 地域ボランティアの活用

掛川市立大浜中学校

平成29年度 我が校のものがたり

大浜中生の学力の実態

- 資料等、具体的なものを提示すると反応がとても良い
- ▲ 話し合いを通して批判的・論理的思考を深めることが苦手
- ▲ 家での復習時間が少ない

論理的な思考
学力の定着度

(全国学調生徒質問紙「家で学校の授業の復習をしていますか」全国平均：51.0% 本校：39.6%)

国の動向（次期学習指導要領）とその捉え

- ・ 資質・能力を育むための、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・ 学びに向かう力、人間性等の涵養など、情意面を醸成し、学び続ける子どもの育成

資質・能力の育成と学習評価の充実

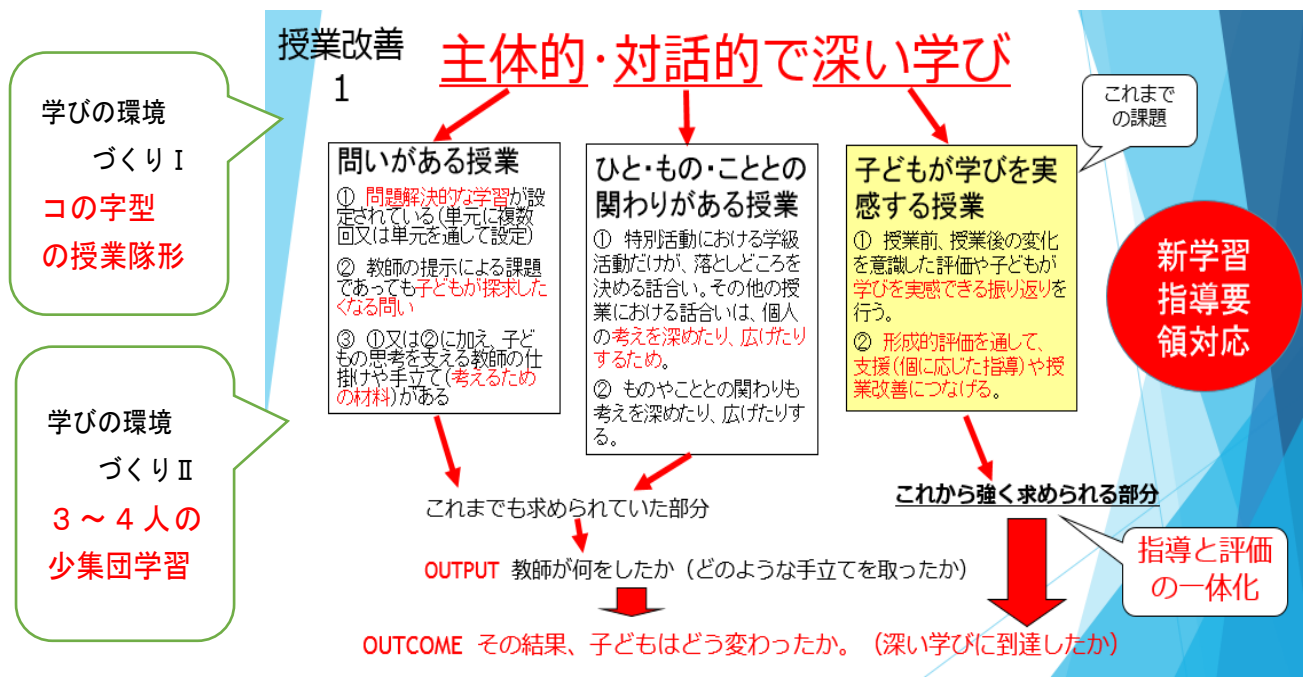
上記の実態を踏まえ、以下の研修を推進する。

研究テーマ 対話的・協働的な学びあいの研究 ～ICTを効果的に活用して～

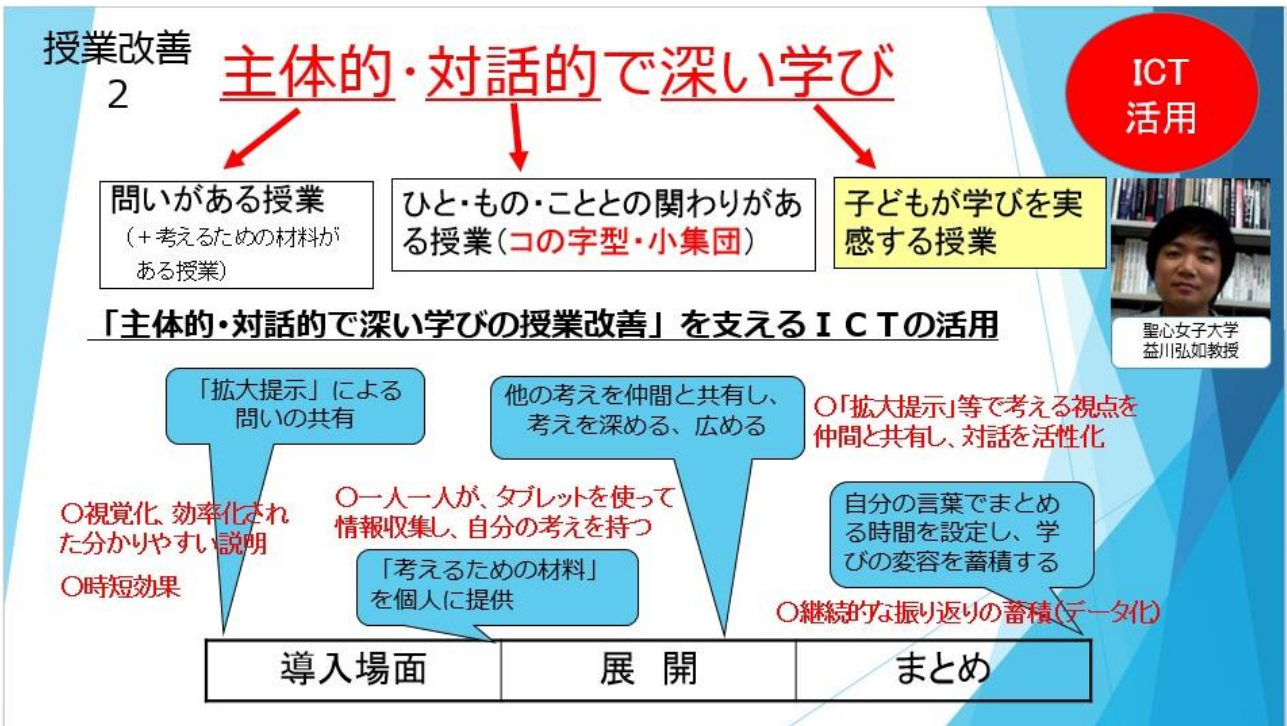
1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、本校における対話的・協働的な学びあい

- (1) 導入で「解決したい課題や問い」を設定
- (2) 展開で「考えるための材料」を生徒に提示
- (3) 「対話と思考」での追究活動
- (4) まとめで「学習の成果」を振り返る

「何をしたか（OUTPUT）」から「その結果どうなったか（OUTCOME）」への意識改革（形骸化からの脱却）



2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、対話的・協働的な学びあいとICT活用の関連







3 具体的な実践

校内研修での取組

- 「COCO 見て ICT！」
 - ・全職員が授業公開
 - ・必ず ICT 機器を効果的に活用
 - ・参観者が感想を書き、研修で共有
- 授業改善のプロセスの共有
 - ・指導案をつくっていく中で、修正をした流れがわかるようにデータ保存して、授業改善の過程を共有できるようにする
- ワークショップ型の協働的研修
 - ・ワークショップ型の研修で、職員全員で意見交換

関係機関等との連携

- 聖心女子大学の益川弘如教授との連携
 - ・校内研修、公開授業に参加
 - ・講義
- 静岡県総合教育センター総合支援課 小中学校班との連携
 - ・アクティブ・ラーニングの視点における授業改善に関する研究で連携し、助言をもらってより質の高い授業をつくる
- 掛川市指定校との連携
 - ・倉真小学校、大須賀中学校と各教科の見方・考え方による深い学びについて研究を深め、指導案、授業実践から授業設計診断などをもとに検証を行い、成果と課題を明らかにする

掛川市立大須賀中学校

平成29年度 我が校のものがたり

研修テーマ

これからの社会に求められる資質・能力の育成を目指して

21世紀に入り16年経過した現在も、グローバル化の波に乗って社会は急速に変化しているところです。

<これまで>

知識を正確に把握したり、与えられた仕事を確実に効率よく実行したりすることが求められる社会

<これから>

獲得した知識を状況によって創り変えたり、それをヒントにして新たな知識を生み出したりすることが必要な社会

そんな社会を生き抜き、よりよい未来を創っていく子どもたちのために、私たち教員も社会とともに変化していく必要があります。

本校では、研修テーマを「これからの社会に求められる資質・能力の育成を目指して」と定め、授業を中心に教育課程全体でその育成をねらいます。

<授業を通して大須賀中学校が育てたい生徒>

- ・他者に対して自分の考え等を根拠とともに明確に説明しながら、議論することを通じて相手の考えを理解したり考え方を広げたりし、多様な人々の協働していくことができる生徒
- ・自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き新たな価値を創造していくとともに新たな問題の発見・解決につなげていくことのできる生徒

研修テーマの実現のために今年度、特に力を入れて取り組みたいことは以下の2点です。

1 授業・単元デザインの工夫

- ・生徒が自発的に資質・能力を発揮して、問題解決を図り、付けたい力を獲得していく単元デザインを行っていきます。
- ・小集団活動やホワイトボード、ICTを活用して生徒らが対話し、考えが共有される環境をつくります。
- ・教師は生徒の学習がより広がり深まるように机間指導に努めます。

2 学習評価を生かした指導方法の工夫改善

- ・生徒の学びの変容を把握できるように、ワークシートやノート等で生徒の考えを蓄積します。(ポートフォリオ評価)
- ・事前に生徒の評価計画を立てます。(ルーブリック評価)
- ・評価材料から、教師は自分の授業を振り返り、次の授業に生かします。(指導と評価の一体化)

